

令和2年度

# 市原市内遺跡発掘調査報告

郡本遺跡群（第25次）

稲荷台遺跡（P地点）

稲荷台遺跡（Q地点）

西野遺跡群（権現堂地区）

2021

市原市教育委員会



令和2年度

# 市原市内遺跡発掘調査報告

こおりもと

郡本遺跡群（第25次）

いなりだい

稲荷台遺跡（P地点）

いなりだい

稲荷台遺跡（Q地点）

にし の

ごんげんどう

西野遺跡群（権現堂地区）

2021

市原市教育委員会



# 例 言

- 1 本書は、国庫及び県費の補助を受けて、市原市教育委員会が主体となり実施した、市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査及び整理作業・報告書刊行は、市原市教育委員会生涯学習部ふるさと文化課埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 3 本書所収の調査は以下のとおりである。所在地等の諸情報は巻末の報告書抄録に記載した。
  - (1) 郡本遺跡群(第25次)(調査コードセ577)  
本調査3.89㎡  
調査期間：令和2年1月17日～令和2年1月17日 担当 小川浩一・浅野健太・中野喬介
  - (2) 稲荷台遺跡(P地点)(調査コードセ576)  
確認調査160㎡/1,592.9㎡  
調査期間：令和元年11月18日～令和元年12月19日 担当 中野喬介
  - (3) 稲荷台遺跡(Q地点)(調査コードセ579)  
確認調査61.9㎡/619.34㎡  
調査期間：令和2年2月28日～令和2年3月12日 担当 小川浩一
  - (4) 西野遺跡群(権現堂地区)(調査コードセ581)  
確認調査38.9㎡/389.52㎡ 本調査106㎡  
調査期間：令和2年6月8日～令和2年6月17日(確認調査) 担当 中野喬介  
調査期間：令和2年6月18日～令和2年7月21日(本調査) 担当 中野喬介
- 4 整理作業・本文執筆は(1)・(3)を小川、(2)・(4)を中野が行い、編集は小川が担当した。なお、(4)の中世遺物に関して、櫻井敦史の教示を受けた。
- 5 (2)の遺構名は、本調査との混淆を防ぐため、確認調査のみで確認された遺構については遺構名の前に「確」の文字をつけて報告した。
- 6 各遺跡の調査に際し、基準点測量を実施したのは稲荷台遺跡(P地点)、稲荷台遺跡(Q地点)及び西野遺跡群(権現堂地区)である。郡本遺跡群(第25次)の図中に示した座標値及び北方位は、地形図等から求めたもので、厳密なものではない。また、水準は遺跡近隣の市原市管理の既知点から求めて使用している。
- 7 郡本遺跡群(第25次)、稲荷台遺跡(P地点)及び稲荷台遺跡(Q地点)は、前年度の調査であるが年度後半であったため、今年度の整理・報告とした。また、今年度は中台遺跡(第2次)(調査コードセ582)、郡本遺跡群(第26次)(調査コードセ583)及び勝間龍性院瓦窯跡(調査コードセ584)の調査も実施したが、整理期間がとれないため次年度の報告とする。
- 8 遺物写真(図版6・7)の縮尺は、基本的に実測図に準じる。

## 本文目次

1	調査遺跡の位置と概要	1
2	郡本遺跡群(第25次)	3
3	稲荷台遺跡(P地点)	6
4	稲荷台遺跡(Q地点)	14
5	西野遺跡群(権現堂地区)	18

## 挿図目次

第1図	調査遺跡位置図	2
第2図	郡本遺跡群(第25次)周辺地形図	3
第3図	郡本遺跡群(第25次)全体図	4
第4図	郡本遺跡群(第25次)平面図・断面図・出土遺物実測図	5
第5図	稲荷台遺跡周辺地形図	7
第6図	稲荷台遺跡(P地点)平面図・断面図(1)	9
第7図	稲荷台遺跡(P地点)断面図(2)	10
第8図	稲荷台遺跡(P地点)断面図(3)	11
第9図	稲荷台遺跡(P地点)断面図(4)	12
第10図	稲荷台遺跡(P地点)出土遺物実測図	13
第11図	稲荷台遺跡(Q地点)全体図	15
第12図	稲荷台遺跡(Q地点)断面図・出土遺物実測図(1)	16
第13図	稲荷台遺跡(Q地点)出土遺物実測図(2)	17
第14図	西野遺跡群(権現堂地区)周辺地形図	19
第15図	西野遺跡群(権現堂地区)平面図・断面図(1)	20
第16図	西野遺跡群(権現堂地区)断面図(2)	21
第17図	西野遺跡群(権現堂地区)出土遺物実測図	22

## 表目次

第1表	中世陶磁器類の集計表	23
第2表	出土遺物観察表	24

## 図版目次

図版1	遺構	郡本遺跡群(第25次)／稲荷台遺跡(P地点)
図版2	遺構	稲荷台遺跡(P地点)
図版3	遺構	稲荷台遺跡(Q地点)
図版4	遺構	西野遺跡群(権現堂地区)
図版5	遺構	西野遺跡群(権現堂地区)
図版6	遺物	郡本遺跡群(第25次)／稲荷台遺跡(P地点)／稲荷台遺跡(Q地点)／ 西野遺跡群(権現堂地区)
図版7	遺物	稲荷台遺跡(Q地点)／西野遺跡群(権現堂地区)

## 1 調査遺跡の位置と概要

令和2年度は、西野遺跡群(権現堂地区)、中台遺跡(第2次)、郡本遺跡群(第26次)、勝間龍性院瓦窯跡の4か所の発掘調査を行った。調査遺跡はいずれも市の北部に位置し、調査原因は個人住宅建設が2か所、宅地造成が1か所、擁壁設置が1か所である。

本書では今年度に調査した1遺跡に加えて、令和元年度後半に調査を行った郡本遺跡群(第25次)、稲荷台遺跡(P地点)、及び稲荷台遺跡(Q地点)について掲載した(第1図)。令和2年度後半以降に調査を行った中台遺跡(第2次)、郡本遺跡群(第26次)、及び勝間龍性院瓦窯跡については、来年度の整理報告対象とする。

郡本遺跡群(第25次)は、東京湾を望む標高25m程度の台地周縁部に位置する。平成29年度に確認調査が行われており、弥生時代後期から奈良・平安時代にわたる竪穴建物跡や、中世の地下式坑等が確認されている。

また、周囲には奈良・平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡が確認された郡本遺跡群(第18次)や竪穴建物跡が確認された郡本遺跡群(第21次)、及び中世の土坑が確認された郡本遺跡群(第23次)等が存在する。

今回は、平成29年度に行われた確認調査の結果を受けて、個人住宅建設における浄化槽部分について本調査が行われ、平安時代の竪穴建物跡1棟が検出されている。

稲荷台遺跡(P地点)は、東京湾を西に望む標高27m程度の台地縁辺部に位置する。稲荷台遺跡の南西部にあり、近隣の調査遺跡として、王賜銘鉄剣を出土した稲荷台1号墳が、東方約45mに存在する。

今回の調査地点では、奈良・平安時代の竪穴建物跡や土坑及び中世に至る地下式坑などが確認された。竪穴建物跡は多くでカマドが確認され、甕の胴部を接続したような煙道を持つカマドも存在した。一部の竪穴建物跡からは、鉄製品が出土した。

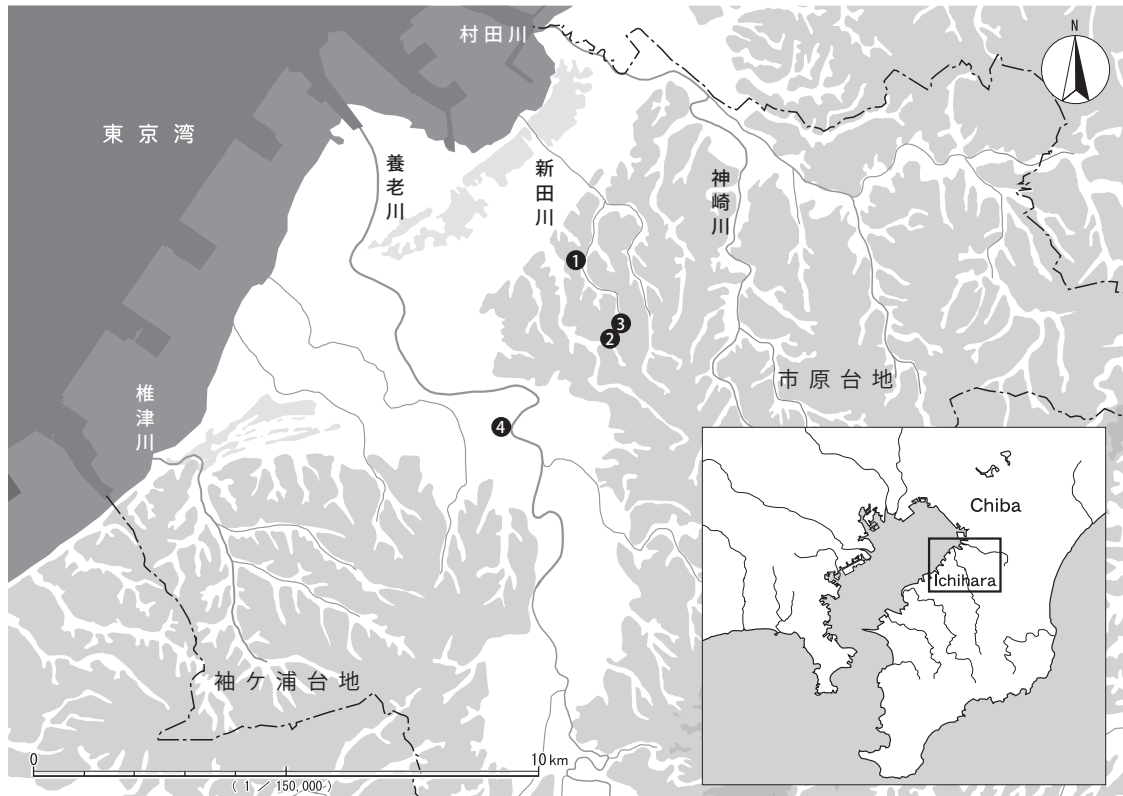
稲荷台遺跡(Q地点)は、西に東京湾を望む標高26m程度の台地上に位置する。稲荷台遺跡の北部にあり、近隣の調査遺跡として、稲荷台遺跡(L地点)及び稲荷台遺跡(O地点)が存在する。

今回の調査地点では、縄文時代の陥し穴や、弥生時代後期及び古墳時代前期の竪穴建物跡が確認された。遺物は、瓦塔の一部が表採されており、周囲に仏教関連の遺構が埋蔵されている可能性を示唆するものとして注目される。また、中世前半期と考えられる青磁杯口縁部片が表採されており、当該期の遺構が存在している可能性も考えられた。

西野遺跡群(権現堂地区)は、養老川中下流左岸を東方0.15kmに望む、標高10m程度の微高地上に位置する。

周囲の遺跡では、北方0.25kmの微高地上を中心とした19,491㎡を、海上地区遺跡群として、平成9～15年度にかけて、発掘調査している。

奈良時代後半を中心とした総柱の掘立柱建物跡が検出された西野遺跡群B2地点や、平安時代前葉を中心とした側柱の掘立柱建物跡が展開していた西野遺跡群D2地点などがあり、北西0.9kmに位置する「小折(こおり)」という字名から、付近に海上郡衙が存在する可能性が指摘されており、今回の調査区において、海上郡衙の存在を補強する遺構の検出が期待された。



- ① 郡本遺跡群 (第25次)
- ② 稲荷台遺跡 (P地点)
- ③ 稲荷台遺跡 (Q地点)
- ④ 西野遺跡群 (権現堂地区)

第1図 調査遺跡位置図

一方、今回の調査区の北方0.25kmにある西野遺跡群D3地点では、中世前半期、鎌倉時代を中心とした溝状遺構が検出され、土橋状になった入り口付近の溝状遺構内から、烏帽子と考えられる布状漆製品が出土している。今回の調査において、中世期まで遡る大型の井戸状遺構が複数検出されており、中世期の本地区一帯における遺構の広がりや、つながりを考える上で注目される。

#### 引用参考文献

- 浅利幸一他 2003『市原市稲荷台遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告書Ⅸ 財団法人市原市文化財センター
- 小川浩一他 2005『海上地区遺跡群』財団法人市原市文化財センター
- 小川浩一 2014「郡本遺跡群 (第21次)」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
- 小川浩一 2020「稲荷台遺跡 (O地点)」『令和元年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
- 小川浩一 2020『稲荷台遺跡 O地点』市原市教育委員会
- 忍澤成視 2014「郡本遺跡群 (第18次)」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
- 近藤 敏 2018「郡本遺跡群 (第23次)・市原古道跡」『平成29年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
- 櫻井敦史他 2009『上総国分僧寺跡 I』市原市教育委員会
- 高橋康男 2007「稲荷台遺跡 L地点」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
- 中野喬介 2019「郡本遺跡群 (第25次)」『平成30年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会



## 2 郡本遺跡群(第25次)

**遺跡の位置** 遺跡は、東京湾旧海岸線から約2km東方にある標高25 m程度の台地周縁部に位置し、西に東京湾岸の沖積地である海岸平野を望み、小谷によって樹枝状に開析された舌状の台地地形を呈する。

これまで、北端部の市原地区から門前・郡本を経て藤井地区に至る広範囲において、住宅等の建設に伴う小規模な調査が数次にわたり行われてきた。

各調査地点では、奈良・平安時代の遺構が濃密に検出されており、現在は遺構の状況や規模によって、官衙エリア及び官衙周辺エリアの絞り込みが行われようとしている段階である。

北西100 mには、官庁などを守護するという神である守公神を想起する「守公山神主院」跡が存在しており、本遺跡群は市原郡衙の推定地となっている。

**調査概要** 調査は、平成29年度に行われた確認調査の結果を受けて、個人住宅建設における浄化槽部分である3.89㎡が対象となった。

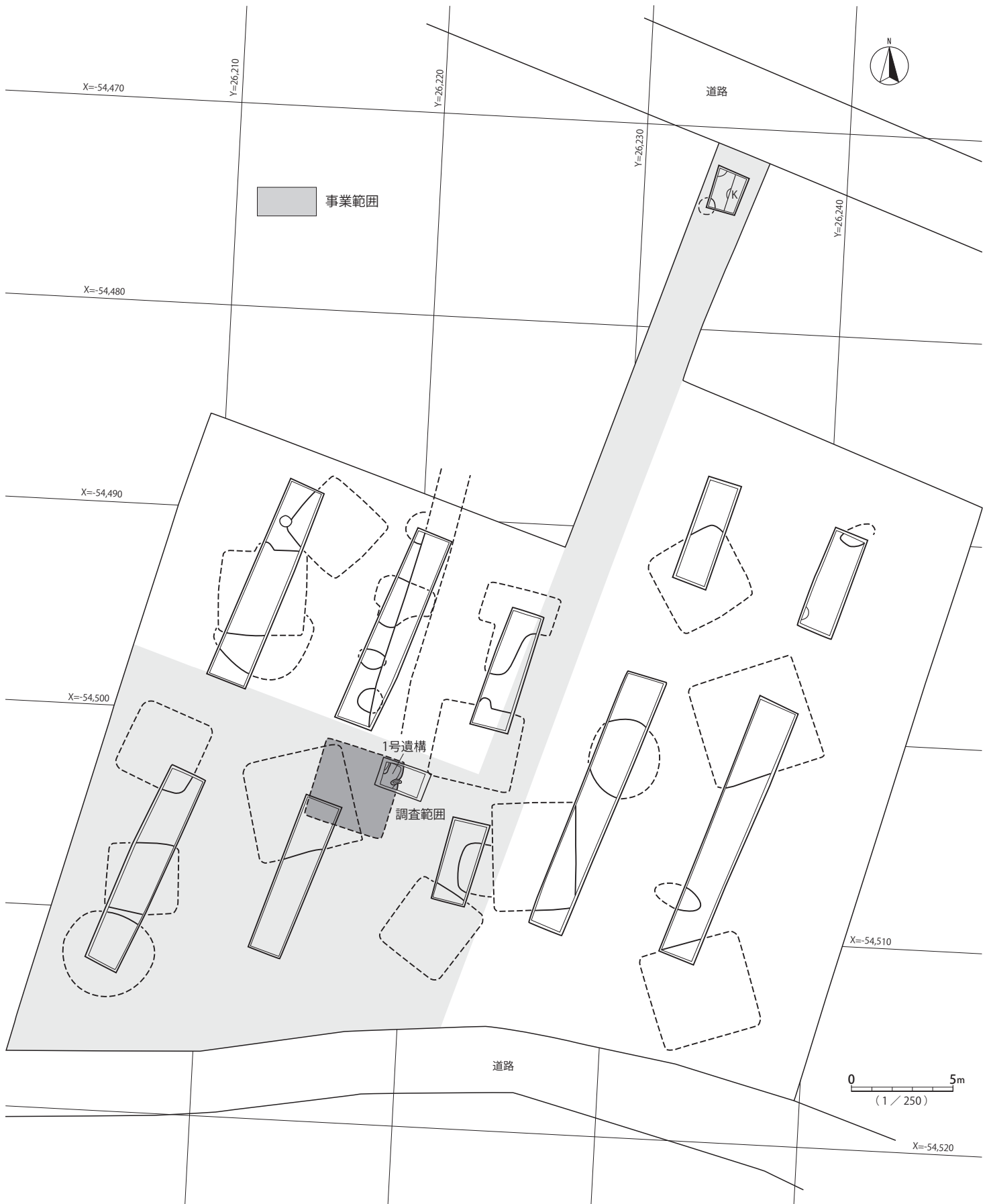
確認面まで深さ0.8 m程度を測る。堆積土はローム粒を多量に含む暗褐色土を主体とする。地山は、褐色土であるソフトロームを基本とする。

**遺構** 調査区内西側において、竪穴建物跡である1号遺構が検出された。遺構下端の北東隅部が検出されており、南西部分の多くが調査区外に存在していると考えられる。

遺構の深度は、0.4 m程度を測り、覆土は、黒色味のある暗褐色土を主体とする。

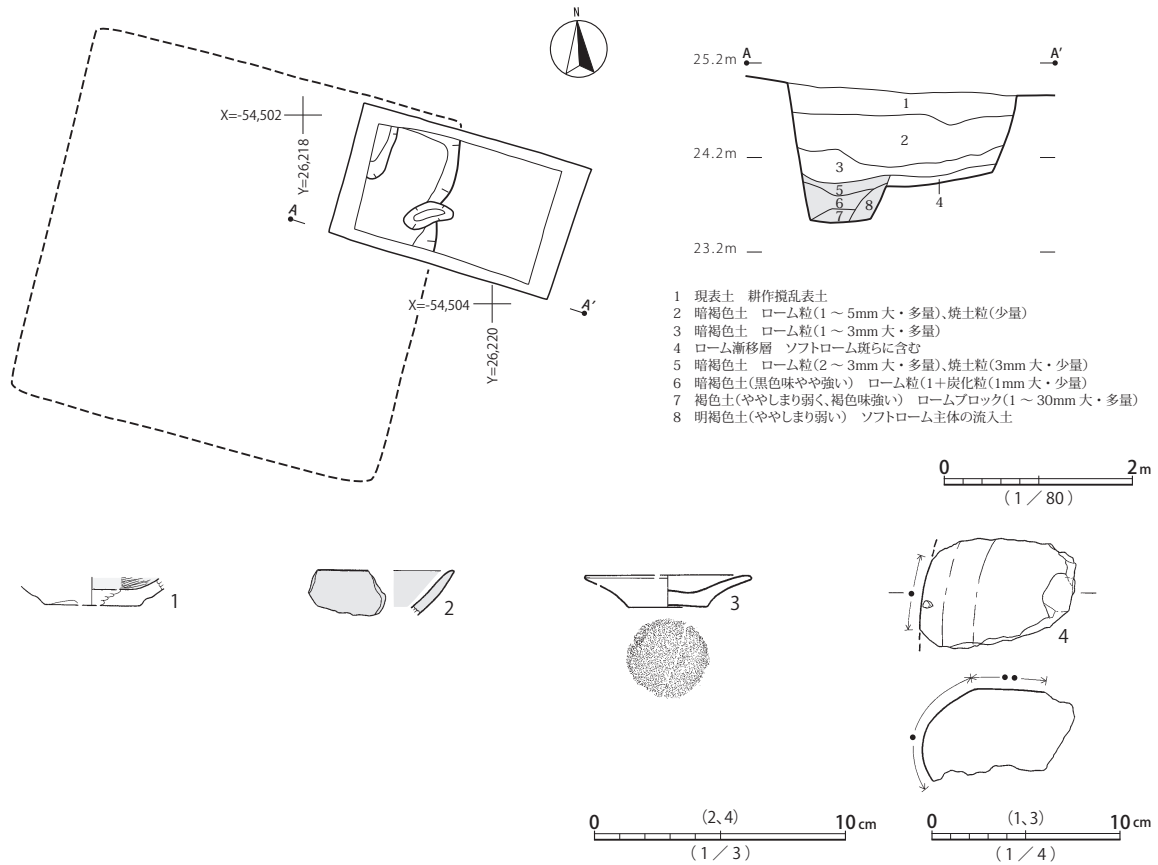


第2図 郡本遺跡群(第25次)周辺地形図



第3図 郡本遺跡群(第25次)全体図

# 1号遺構



第4図 郡本遺跡群(第25次) 平面図・断面図・出土遺物 実測図

カマドは北西側調査区外に存在していると考えられる。調査区北西隅部に落ち込みが認められたが、明瞭な柱穴等は、検出されなかった。壁溝も検出されなかった。

また、硬化面も検出されなかったが、竪穴建物跡の北東隅部のみの調査であり、南西側に向かって、硬化面が存在している可能性がある。

**遺物** 検出された面積が狭小であることから、出土遺物は僅少である。図示できる遺物としては、覆土中から、内面黒色処理した土師器杯1や、緑釉陶器碗2及び土師器小皿3などが出土している。

石器では、磨石4が覆土中から出土しているが、混入と考えられる。

## 引用参考文献

小川浩一 2014「郡本遺跡群(第21次)」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

小川浩一 2015「郡本遺跡群(第22次)」『平成26年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

小橋健司 2013『市原市郡本遺跡群(第15次)』市原市教育委員会

近藤 敏 2018「郡本遺跡群(第23次)」『平成29年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

田中清美 2011「市原城跡辻地区」『平成22年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

中野喬介 2019「郡本遺跡群(第25次)」『平成30年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

宮本敬一 1999「郡本遺跡は郡衙跡か・忘れられた社寺」『市原市郡本周辺の遺跡と文化財』市原市歴史と文化財シリーズ第四輯

市原市地方史研究連絡協議会

### 3 稲荷台遺跡(P地点)

**遺跡の位置** 遺跡は、東京湾の旧海岸線から南東に約3km、北西に東京湾を望む市原台地上に位置する。今回の調査区は台地の西側縁辺部、村田川水系に属する白幡川、新田川によって開析された小谷に挟まれる標高約27mの地点に所在し、現表土は近年の整地作業により、市道2号線(稲荷台通り)に標高を合わせるため盛土された調査区東側部分を除いて、ほぼ一定の高度を保っていた。

山田橋地区にあるため、周辺の遺跡と調査例は多く、稲荷台遺跡と年代が近い奈良・平安時代を中心とした遺跡に限っても、南西約0.5kmの地点に上総国分尼寺跡、同方向約1.1kmには上総国分僧寺跡が、北方約0.5kmの位置には、市原郡家の有力推定地である郡本遺跡群が所在する。

稲荷台遺跡は現在に至るまで、いわゆる虫食い状に調査が実施されており、令和2年度現在、本書に収録されるQ地点まで調査が進んでいる。P地点となる本調査区の北端と東端は、かつてのB地区に隣接し、周辺の調査区としては市道2号線を挟んで東側にA地区、道路を挟んで南側にD地区、遺跡の中心的な地区として考えられているE地区は北東約80mに存在するなど、確認調査以前から遺構の所在は確実であるものと考えられた。

**調査概要** 調査は保育所建設に伴う確認調査で、B地区の既調査範囲を除いた1,592.9㎡を対象として実施した。重要遺跡であることから基準点測量を実施して、調査区に10m四方のグリッドを設定し、それぞれのグリッドに、地形の都合から一定ではないものの、遺漏のないよう5～15%のトレンチ(第6図)を設定している。調査区内に調査排土と施設を置く関係から、同時に全てのトレンチを開けることはできず、1～20、21～23トレンチの掘削には時差がある。

周辺地形から、本来の地形が西側に傾斜していることは明らかであったため、遺構確認面の深度には大きなばらつきがでるものと配慮をしながらの掘削となった。実際に、調査区最東端に設置した14トレンチでは 標高約27.2mの地点から住居の覆土が検出されたのに対して、最西端の11トレンチでは、標高約25.5mから遺構の覆土(第8図)が検出されるなど、遺構までの深度に約1.7mの差がある。このような傾斜のある土地に対して、埋め立てや掘削を伴う土地利用がなされた結果、調査区西側の遺構残存率が高く、東側や北側は攪乱の影響を受けていた。特に調査区北東に位置する4・9・10トレンチは、大規模な削平を受けて遺物の出土も僅少であった。この確認調査結果を踏まえて、4・9・10トレンチから北東の範囲はトレンチ内と同様に大規模な攪乱を受けているものと判断し、以降の埋蔵文化財の協議範囲からは除外している。

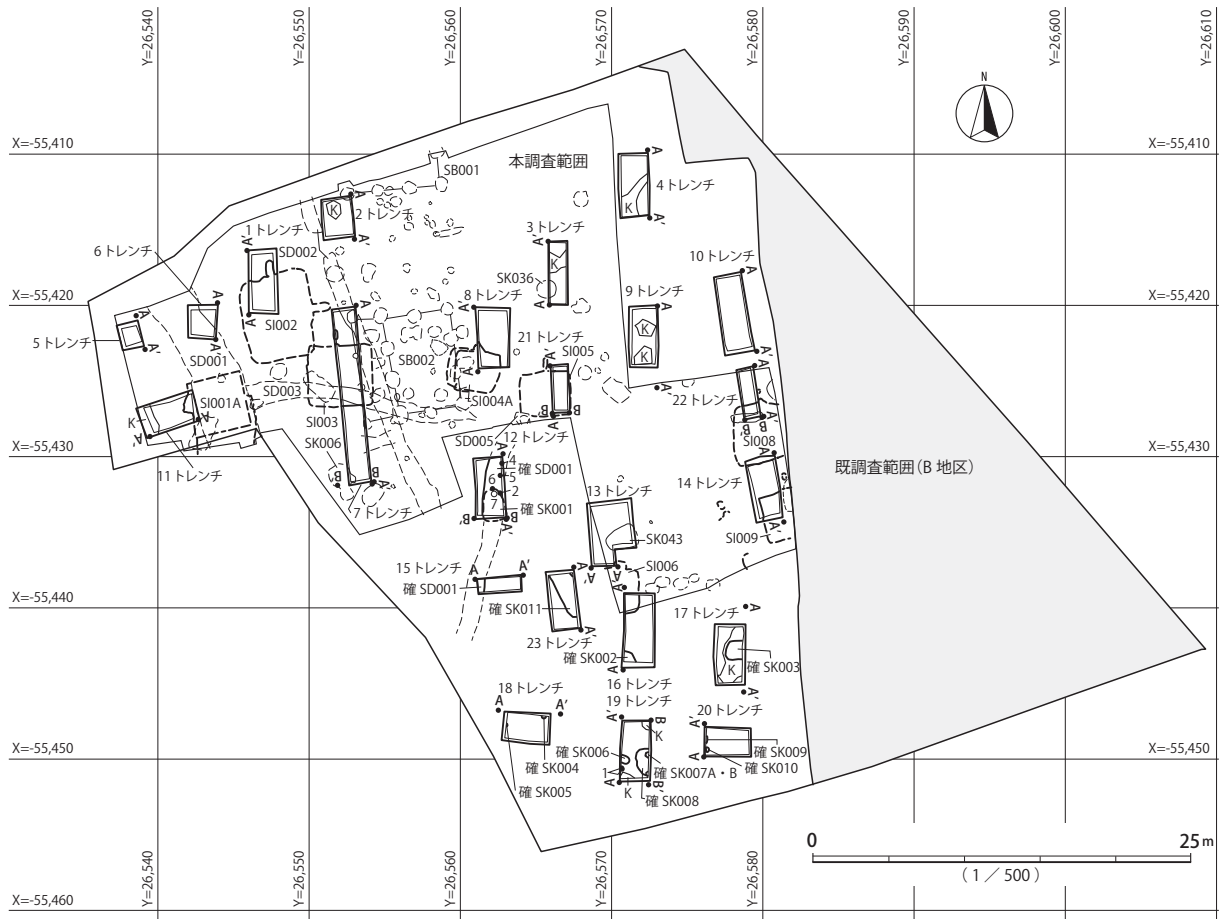
**遺構と遺物** 4・9・10を除くトレンチからは基本的に遺構が確認されたため、トレンチの範囲は、その後も協議範囲として残り、建築物の掘削の範囲を基準に本調査範囲が決定された。1トレンチからは、標高約26.1mから、平安時代の竪穴建物跡であるSI002が、古代の遺物包含層を掘り込む形で見つかっている。遺構確認面からカマドの煙道として用いられた土師器甕が出土し、周囲に砂質粘土が散っていたことから、大規模なカマドを有していることが判明した。なお、その後の本調査では、東壁からもう一基のカマドが発見されている。2トレンチからは、SB001P2が検出されている。遺構の上部が削平され、覆土中の土師器の小片を理由に奈良・平安時代の土坑と判断した。のちに本調査で東側に対応する柱穴が見つかったことから掘立柱建物跡であることが判明した。3トレンチからはソフトロームを掘り込んでSK036が出土し、本調査時に土坑墓と推測された。6ト



第5図 稲荷台遺跡 周辺地形図

レンチでは近年まで利用されていた道路跡であるSD001が見つまっている。7トレンチはSI003とその上部から掘り込まれるSB002の柱穴、更にその上部を通る溝状遺構SD003を確認している。なお、トレンチの北部では中近世以降の溝状遺構であるSD002、南端では古墳時代終末期～奈良時代の地下式坑であるSK006と遺構を多く捕捉している。8トレンチはかなり攪乱を受けていたが、平安時代の竪穴建物跡SI004Aを確認することができた。調査区西端の11トレンチからは平安時代の竪穴建物跡SI001Aを検出したが、遺存度はそれほど良くない。13トレンチは古墳時代終末期～奈良時代の地下式坑であるSK043が確認できる深度までほとんどの土が入れ替わっていた。昭和49～54（1974～79）年に撮影された航空写真では、調査区上に複数の住宅が確認でき、それらの建設・解体で既存の土が失われたようである。14トレンチから発見されたSI009（B地区調査63号住居跡）、21トレンチから発見されたSI005、22トレンチから発見されたSI008などの奈良・平安時代の竪穴建物跡も同様の状況で、攪乱が著しく遺構の上面はほぼ削れている。以上が、その後本調査範囲となった各トレンチの所見である、詳細は本調査報告（齊木2021）を参照されたい。

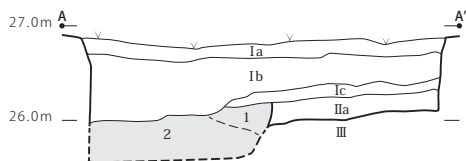
次に、今回工事による削平を免れ、本調査対象範囲から外れた各トレンチの状況である。12トレンチからは、2の灰釉陶器碗、3の永田・不入窯Ⅲ期の須恵器杯、4の土師器杯、5の土師器内黒杯、6の稻荷台遺跡Ⅲ期-b（浅利他2003）の台付鉢といった遺物を含む溝状遺構である確SD001が見つまっている。また、その下から古墳時代終末期～奈良時代の有天井土坑確SK001が検出されている。なお、15トレンチでも南方へと延びる確SD001を確認しているものの上部の攪乱により残存状況が良くない。確SD001が本調査区のSD005と同一の遺構である可能性があるものの、3・8・21トレンチの断面や、SD005より北側の範囲で平面プランを明確に確認できないのは、覆土の堆積が浅く、12トレンチより北側では削平を受けているためと考えられる。出土遺物と土層断面、周辺状況から、9世紀末～中世に掘られた溝であると看取された。なお、16トレンチは北端の一部が本調査区にかかっており、SI006の南側を捉えている。また、堆積状況から奈良・平安時代の土坑と判断した確SK002がトレンチ南端で確認されている。17トレンチからも同様に奈良・平安時代の土坑確SK003が見つまっている。18トレンチは古代の表土層を掘り込んでいることから、奈良・平安時代～中世にかけての柱穴と思われる確SK004と確SK005が確認されている。また、19トレンチ西側からは確SK006、東側から掘り直された痕跡のある確SK007A・B、その上部からさらに掘り込まれた確SK008を検出している。確SK008に関してはトレンチの西側の状況から、近世の土坑と考えられるが、他の土坑は本調査区及び、B区調査などの周辺状況を鑑みると、奈良・平安時代の掘立柱建物跡の可能性が高い。しかしながら、確認調査の範囲では明確な対応関係が結ばなかったため、便宜上SK（土坑）と表記した。なお、図示に至らない奈良・平安の土師器片のほか1の諸磯式と思われる縄文土器が検出されている。本調査時には縄文時代の土坑が検出されており、調査区における縄文時代の遺構の広がりを示唆する。20トレンチからは、8の土師器甕が見つまっている、確SK009が土層の堆積状況的に中世～近世のものであるため、確SK010に由来するか、紛れ込んだものだろうか。23トレンチではローム漸移層を掘り込んで作られた奈良・平安時代の地下式坑確SK011を検出した。また、遺構精査中に図示には至らない奈良・平安の土師器片が出土しているが、地下式坑が埋まった際に紛れ込んだものであろう。以上の確認調査結果から、今回本調査範囲から外れた確認調査区南側の範囲においても、遺構の残存状況に関してはよくないと想定できるものの、本調査



**共通土層**

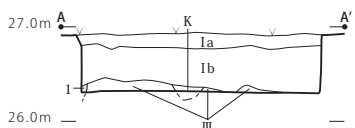
- Ia 7.5YR3/3 暗褐色土 表土 粘性ややあり しまりなし 碎石多量含む
- Ib 7.5YR4/3 褐色土 客土 粘性ややあり しまりややあり 20mm 程の 7.5YR5/8 明褐色ロームブロック多く含む
- Ic 7.5YR3/3 暗褐色土 旧耕作土 粘性ややあり しまりあり 5～10mm の 7.5YR4/4 褐色粒多く混じる
- IIa 7.5YR3/2 黒褐色土 古代の遺物包含層 粘性ややあり しまりややなし 3～4mm の 7.5YR6/6 橙色ローム粒多量含む
- IIb 7.5YR4/4 褐色土 ローム漸移層 粘性あり しまりややあり 10mm 前後の 7.5YR4/3 褐色土多く混じる
- III 7.5YR6/8 橙色土 ソフトローム層 粘性あり しまりあり 地山
- IV 7.5YR5/8 明褐色土 ハードローム層 粘性あり しまり強い

**1 トレンチ**



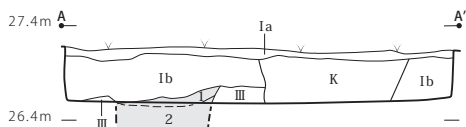
- 1 7.5YR3/2 黒褐色土 SI002 覆土 粘性ややあり しまりややなし 3～4mm の 7.5YR6/6 橙色ローム粒少量含む
- 2 7.5YR3/2 黒褐色土 SI002 覆土 粘性あり しまりややあり 5～10mm の 7.5YR5/6 明褐色ローム粒・白色微粒少量含む

**2 トレンチ**

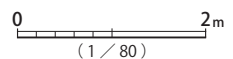


- 1 7.5YR3/2 黒褐色土 SB001 P2 覆土 粘性ややあり しまりややなし

**3 トレンチ**

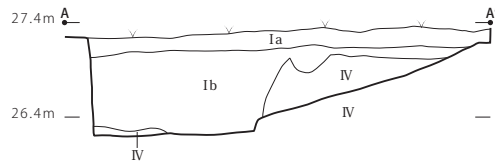


- 1 7.5YR3/3 暗褐色土 SK036 覆土 粘性あり しまりあり 2～5mm の 7.5YR7/6 橙色ローム粒多く含む
- 2 7.5YR3/2 黒褐色土 SK036 覆土 粘性ややあり しまりややあり 3～5mm の 7.5YR7/6 橙色ローム粒多く含む

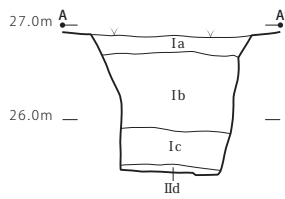


第6図 稲荷台遺跡(P地点) 平面図・断面図(1)

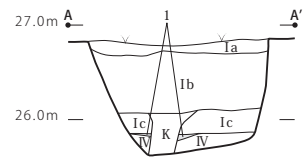
### 4 トレンチ



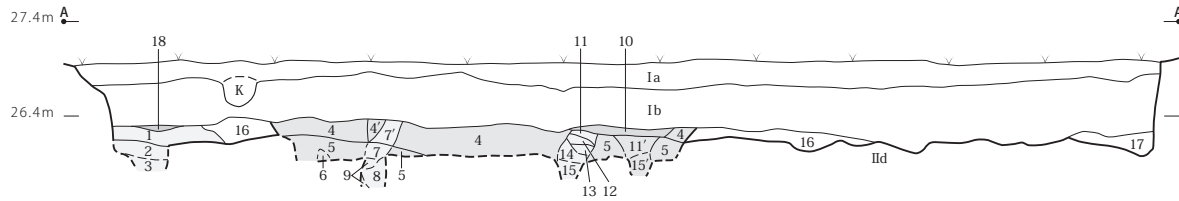
### 5 トレンチ



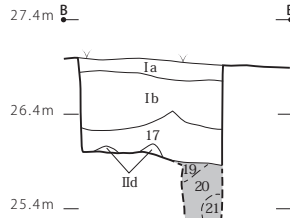
### 6 トレンチ



### 7 トレンチ

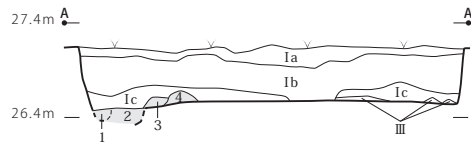


1 7.5YR6/8 橙色土 SD001 覆土 粘性あり  
しまり非常に強い 7.5YR3/3 暗褐色土の粒子を少量含む



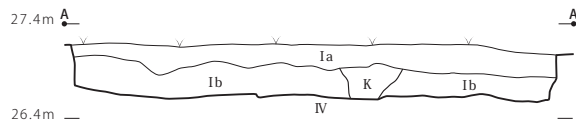
- 1 7.5YR3/3 暗褐色土 SB002 P11 覆土 粘性ややあり しまりあり 20mm 前後の 7.5YR4/4 褐色ロームブロック少量混じる
- 2 7.5YR4/3 褐色土 SB002 P11 覆土 粘性なし しまりなし 5mm 前後の 7.5YR4/4 褐色ローム粒少量混じる 下部はやや明るい
- 3 7.5YR3/4 暗褐色土 SB002 P11 覆土 粘性ややなし しまりややなし 7.5YR2/2 黒褐色土まだら状に混じる
- 4 7.5YR3/3 暗褐色土 SI003 覆土 粘性ややあり しまりあり 3~10mm の 7.5YR4/4 褐色粒多く混じる
- 4' 7.5YR3/3 暗褐色土 SI003 覆土が攪乱された層 7.5YR4/4 褐色粒 4 層よりやや多い
- 5 7.5YR3/3 暗褐色土 SI003 覆土 粘性あり しまりあり 3~10mm の 7.5YR4/5 褐色粒非常に多く混じる
- 6 7.5YR3/4 暗褐色土 SI003 覆土 粘性ややあり しまり強い カマドの土と思われる 7.5YR5/3 にふい褐色砂と粘土混じる
- 7 7.5YR3/3 暗褐色土 SB002 P12 柱痕跡 粘性ややあり しまりややあり 3~4mm の 5/6 明褐色ローム粒多く混じる
- 7' 7.5YR3/3 暗褐色土 SB002 P12 柱痕跡 粘性あり しまりややあり 3~4mm の 5/6 明褐色ローム粒微量混じる
- 8 7.5YR3/2 暗褐色土 SB002 P12 柱痕跡 粘性あり しまりややなし 5~10mm の 5/3 にふい褐色粒僅かに散る
- 9 7.5YR5/8 明褐色土 SB002 P12 柱痕跡 粘性あり しまりあり ハードロームと 8 層の混淆
- 10 7.5YR3/3 暗褐色土 SD003 覆土 粘性あり しまりあり 5~10mm の 7.5YR5/6 明褐色ローム粒多い
- 11 7.5YR3/2 黒褐色土 SB002 P13 柱痕跡 粘性あり しまりあり 5~10mm の 7.5YR5/6 明褐色のローム粒 10 層より多く含む
- 11' 7.5YR3/2 黒褐色土 SI003 P5 覆土 粘性あり しまりあり 5~10mm の 7.5YR5/6 明褐色のローム粒少量含む
- 12 7.5YR3/4 暗褐色土 SB002 P13 柱痕跡 粘性あり しまりなし 4~5mm の 7.5YR5/6 明褐色ローム粒含む
- 13 7.5YR3/4 暗褐色土 SB002 P13 柱痕跡 粘性あり しまりあり 4~5mm の 7.5YR5/6 明褐色ローム粒少量含む
- 14 7.5YR3/4 暗褐色土 SB002 P13 柱痕跡 粘性あり しまりややあり 4~5mm の 7.5YR5/6 明褐色ローム粒多く含む
- 15 7.5YR3/3 暗褐色土 SB002 P13 柱痕跡 粘性あり しまりややあり
- 15' 7.5YR3/3 暗褐色土 SI003 P5 覆土 粘性あり しまりあり 15 層より粒子細かい 白色微粒、1~2mm の黒色粒子僅かに含む
- 16 7.5YR3/3 暗褐色土 古代の遺物包含層 粘性ややあり しまりややあり 一部に SI003 から流れ出した粘土塊あり
- 17 7.5YR3/3 暗褐色土 古代の遺物包含層 粘性あり しまりややあり 10mm 前後の 7.5YR5/8 明褐色ローム粒、3mm 前後の 7.5YR7/6 橙色粒子混じる
- 18 7.5YR3/3 暗褐色土 SD002 覆土 粘性ややあり しまりあり 20mm 前後の 7.5YR4/4 褐色ロームブロックごく微量混じる
- 19 7.5YR3/3 暗褐色土 SK006 覆土 粘性あり しまりあり
- 20 7.5YR4/4 褐色土 SK006 覆土 粘性あり しまり強い
- 21 7.5YR3/3 暗褐色土 SK006 覆土 粘性あり しまりややあり 上部に 5~10mm の 7.5YR4/4 褐色ローム粒混じる 下部はやや暗い

### 8 トレンチ

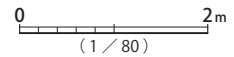
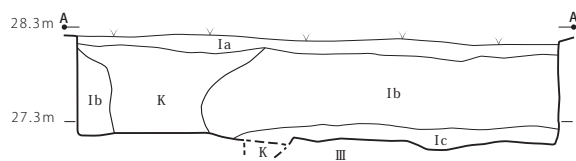


- 1 7.5YR3/2 黒褐色土 SI004A 覆土 粘性ややあり しまりあり 1~2mm の 7.5YR4/4 褐色ローム粒・白色微粒含む
- 2 7.5YR3/2 黒褐色土 SI004A カマド部分 粘性あり しまりあり 一部に 2~3mm の 7.5YR6/6 褐色粘土粒・白色微粒含む
- 3 7.5YR3/2 黒褐色土 SI004A 覆土 粘性なし しまりややあり 一部に 1~2mm の 7.5YR6/6 褐色粘土粒・白色微粒含む
- 4 7.5YR4/3 褐色土 SI004A 覆土 粘性なし しまり強い 粘土の比率多い 10~20mm の 7.5YR6/8 褐色粒少量含む

### 9 トレンチ



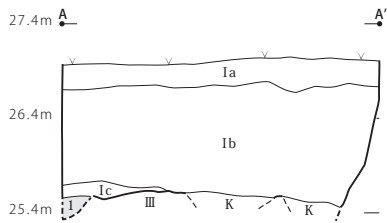
### 10 トレンチ



第7図 稻荷台遺跡(P地点) 断面図(2)

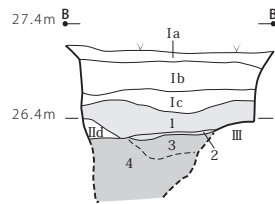
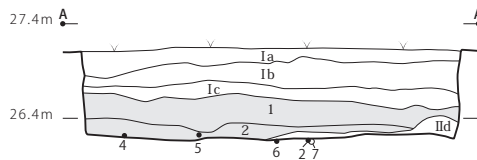


### 11 トレンチ



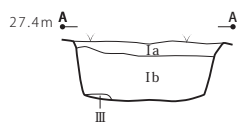
1 7.5YR3/4 暗褐色土 SI001A 覆土 粘性ややあり しまりあり 2~4mmの黒色粒子まばらに含む

### 12 トレンチ

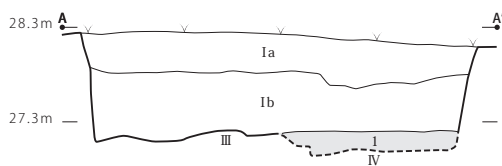


- 1 7.5YR4/4 褐色土 確 SD001 覆土 粘性あり しまりあり 10~20mmの7.5YR5/4にぶい褐色ロームブロック多く混じる
- 2 7.5YR3/4 暗褐色土 確 SD001 覆土 粘性あり しまりあり 10~15mmの7.5YR5/4にぶい褐色ロームブロック多く混じる 5mm程の炭化物少量混じる
- 3 7.5YR5/6 明褐色土 確 SK001 覆土 粘性あり しまりなし IId層の土と混じりあう7.5YR3/2黒褐色のシミあり
- 4 7.5YR3/4 暗褐色土 確 SK001 覆土 粘性ややなし しまりなし 上部に100~150mmの5/6明褐色土ロームブロック・細かい砂混じる ロームブロックは下部ほど色が沈み小さくなっていく

### 13 トレンチ

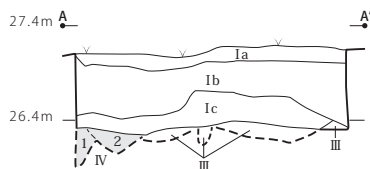


### 14 トレンチ



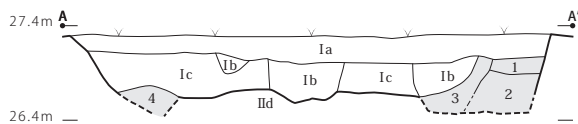
1 7.5YR4/3 褐色土 SI009 覆土 粘性あり しまりややあり 0.5~10mmの7.5YR5/8明褐色ローム粒・ブロック多く含む

### 15 トレンチ



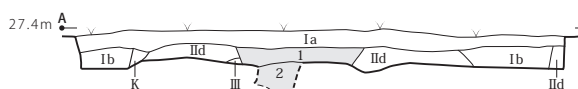
- 1 7.5YR6/8 橙色土 確 SD001 覆土 粘性あり しまりややなし 7.5YR4/4ロームブロック混入
- 2 7.5YR4/6 褐色土 確 SD001 覆土 粘性あり しまりややあり 攪乱され黒く変色したソフトロームと混じり合う

### 16 トレンチ

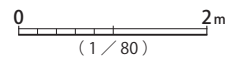


- 1 7.5YR3/3 暗褐色土 SI006 覆土 粘性あり しまり強い 5~10mmの7.5YR4/4褐色粒が多く混じる 7.5YR6/6の橙色粒子・白色粒子多く含む
- 2 7.5YR3/2 黒褐色土 SI006 覆土 粘性あり しまりなし 7.5YR5/8明褐色土マーブル状に混じる
- 3 10YR3/4 暗褐色土 SI006 覆土 粘性あり しまりあり 20~40mmの7.5YR5/8明褐色ロームブロック含む 5~40mmの10YR8/3浅黄橙色粘土塊多量混じる
- 4 7.5YR3/4 暗褐色土 確 SK002 覆土 粘性ややあり しまりややあり 白色微粒多く含む

### 17 トレンチ

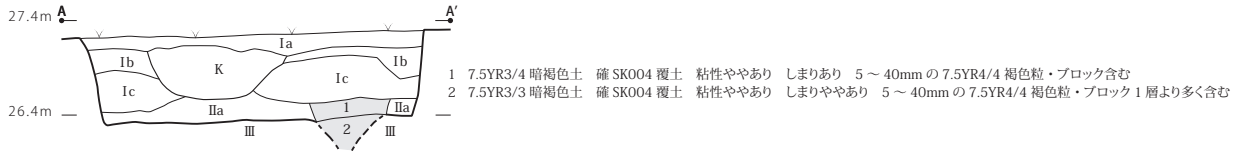


- 1 10YR2/3 黒褐色土 確 SK003 覆土 粘性ややあり しまりややあり
- 2 7.5YR3/3 暗褐色土 確 SK003 覆土 粘性ややあり しまりややあり 5~10mmの橙色ブロック多く含む

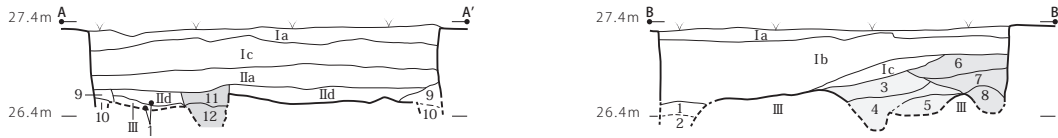


第8図 稻荷台遺跡(P地点) 断面図(3)

### 18トレンチ



### 19トレンチ

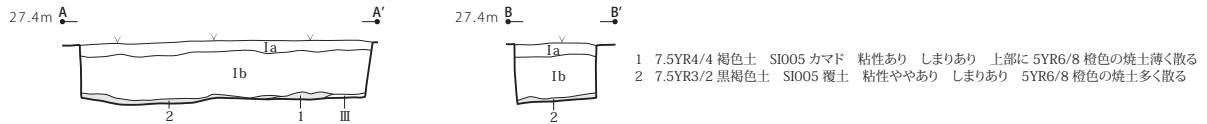


- 1 7.5YR3/3 暗褐色土 攪乱 粘性あり しまりややあり 粒子の大きさにムラあり
- 2 7.5YR4/3 褐色土 攪乱 粘性あり しまりややあり 粒子細かい
- 3 7.5YR3/3 暗褐色土 確 SK007B 覆土 粘性あり しまりややあり 10~30mmの7.5YR4/4 褐色ブロック多量混じる
- 4 7.5YR3/4 暗褐色土 確 SK007B 覆土 粘性ややあり しまりややあり 7.5YR4/4 褐色土まばらに含む
- 5 7.5YR3/4 暗褐色土 確 SK007A 覆土 粘性あり しまりなし 粒子細かい
- 6 7.5YR3/2 黒色土 確 SK008 覆土 粘性あり しまり強い
- 7 7.5YR3/1 黒色土 確 SK008 覆土 粘性あり しまりややあり 5~10mmの7.5YR5/6 明褐色土粒わずかに含む
- 8 7.5YR5/4,3/4 の土混濁する 確 SK008 覆土 粘性ややあり しまりややあり
- 9 7.5YR3/1 黒褐色土 耕作痕 粘性ややあり しまりややあり 小礫混じる
- 10 7.5YR3/3 暗褐色土 耕作痕 粘性あり しまりややあり 粒子細かく、白色微粒含む
- 11 7.5YR3/3 暗褐色土 確 SK006 覆土 粘性ややあり しまりあり 橙色粒子含む
- 12 7.5YR6/8 褐色土 確 SK006 覆土 III層が攪乱される

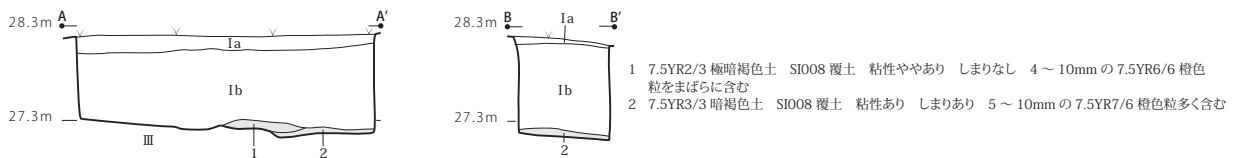
### 20トレンチ



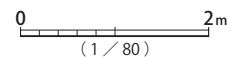
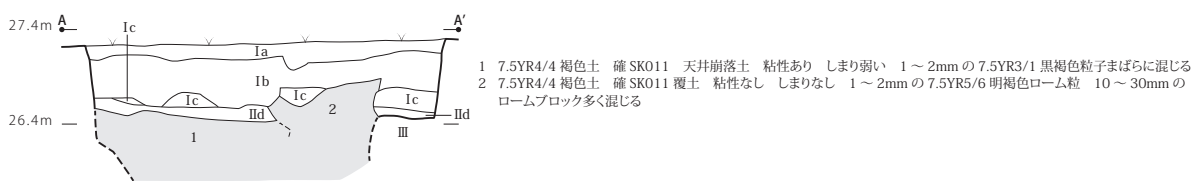
### 21トレンチ



### 22トレンチ

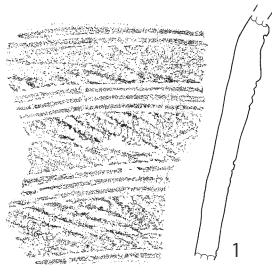


### 23トレンチ

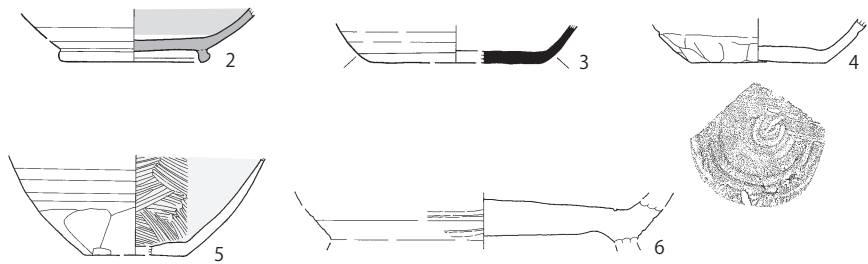


第9図 稲荷台遺跡(P地点) 断面図(4)

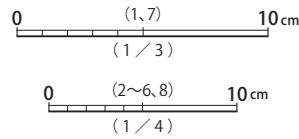
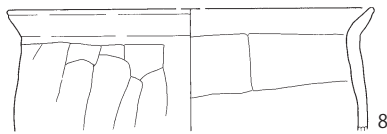
19トレンチ



12トレンチ 確SD001



20トレンチ



第10図 稲荷台遺跡(P地点) 出土遺物 実測図

範囲ならびにB地区、A地区、D地区といった過去の調査範囲と同様に平安時代を主体とした遺構が高い密度で分布しているものと言えよう。

参考文献

浅利幸一他2003『市原市稲荷台遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告Ⅹ 財団法人市原市文化財センター  
 小川浩一2008「稲荷台遺跡M地点」『平成19年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会  
 小川浩一2014「稲荷台遺跡(L-2地点)・(L-3地点)」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会  
 小川浩一2020「稲荷台遺跡(O地点)」『令和元年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会  
 小川浩一2020『市原市稲荷台遺跡O地点』市原市教育委員会  
 木對和紀2017『市原市稲荷台遺跡L8地点』市原市教育委員会  
 近藤 敏2014「稲荷台遺跡(N地点)」『平成25年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会  
 近藤 敏2015「稲荷台遺跡(L5地点)・(L6地点)・(L7地点)」『平成26年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会  
 齊木 誠2021『市原市稲荷台遺跡P地点』市原市教育委員会  
 櫻井敦史2006「稲荷台遺跡K地点」『平成17年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会  
 高橋康男2007「稲荷台遺跡L地点」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会  
 田中清美2015『市原市稲荷台遺跡L1・L4地点』市原市教育委員会  
 鶴岡英一2000「稲荷台遺跡」『平成11年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会  
 牧野光隆2003「稲荷台遺跡」『平成14年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

## 4 稲荷台遺跡(Q地点)

**遺跡の位置** 遺跡は、西に東京湾を望む市原台地にあり、白幡川水系によって開析された、標高26m程度の台地に位置する。調査区の北方170mには、小支谷が西側から入り込んでおり、「在長面」という小字を有している。

稲荷台遺跡は、これまで虫食い状に発掘調査が行われており、現在Q地点まで及んでいる。その中心的な遺跡として知られるのが南東約180mに位置するE地区である。昭和53～55年に発掘調査が行われ、四面廂を持つ掘立柱建物跡を含む多数の掘立柱建物跡や、犠牲獣を伴う祭祀跡を検出したのははじめ、大量の緑釉陶器が出土しており、国府関連遺跡と考えられている。

また、東方150mに位置する平成14年度に発掘調査が行われたJ地点においては、国道297号線に並走する古代道路跡の大規模な切り通しが検出されている。幅13.7～14.8m、深さ約3mの溝状の掘り込みを持つ道路状遺構であり、3面以上の硬化面が確認された。中世期において、大規模な改変が行われている可能性が高いものの、国府関連遺跡を結ぶ交通路として注目される。

近傍では、北方約100mにおいて、平成18年度から調査が行われているL地点や、令和元年度に調査が行われたO地点が存在する。両遺跡ともに、竪穴建物跡が主体であり、掘立柱建物跡を主体とするE地区とは、遺構の傾向は明瞭に異なり、官衙関連施設を維持・管理する成員の集落跡と考えられている。

Q地点は、E地区と、L及びO地点との中間地点に位置することから、官衙関連遺構、あるいは竪穴建物跡の集落の広がりへの把握が、今回の調査の目的の一つとなった。

**調査概要** 発掘調査は調査対象面積619.34㎡に対し、トレンチを8本設定して行った。北側に近接するL及びO地点のトレンチ方向を踏まえ、東西方向のトレンチ設定とした。

現場は、近年まで畑地で耕作が繰り返されており、特に南側は、確認面までの深度が浅くなる傾向があり、遺構の残存状態はあまり良くなかった。堆積土も基本的に耕作に伴う攪拌を受けており、富士宝永火山灰等は確認されなかった。

**遺構と遺物** 1トレンチにおいて、縄文時代の陥し穴を確認した。直径1.5m程度の楕円形を呈していると考えられる。遺物は、トレンチから土師器甕の底部1が出土している。

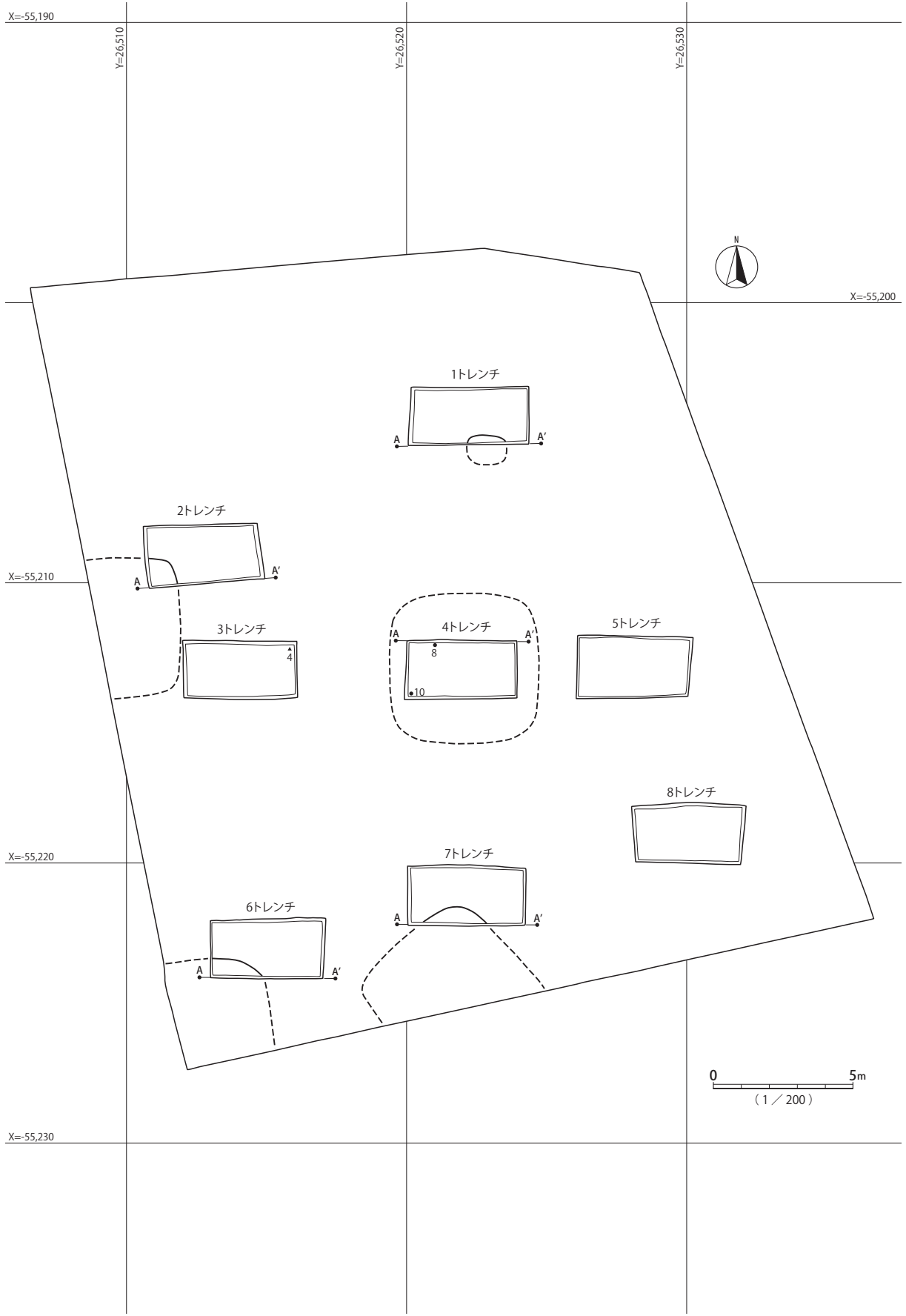
2トレンチでは、古墳時代前期の可能性のある竪穴建物跡を確認した。北東隅部が確認され、南西方向の調査区外に向かって遺構が存在していると考えられる。遺物は、トレンチから縄文土器胴部片2や、土師器の甕底部3が出土している。

4トレンチからは、古墳時代前期の竪穴建物跡を確認した。トレンチ全体が、遺構内に入っていると考えられる。遺構内からは、赤彩が施された小型の壺下半部8や、甕の底部10などが出土している。堅牢な床硬化面があると想定される。

6トレンチでは、弥生時代後期と考えられる竪穴建物跡を確認した。遺構の残存状況は、あまり良くない。トレンチ内から、弥生時代後期の壺胴部片11が出土している。

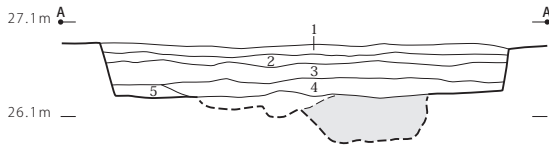
7トレンチからは、古墳時代前期の可能性のある竪穴建物跡を確認した。遺構の残存状況は良くないと考えられる。図示できる遺物の出土はなかった。

遺構に伴わない遺物として、須恵器の高台付杯13が出土している。また、龍泉窯系の青磁杯口縁



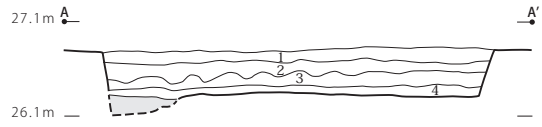
第11図 稲荷台遺跡(Q地点) 全体図

### 1トレンチ



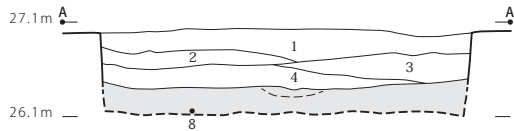
- 1 現表土 耕作攪乱表土
- 2 暗灰褐色土 ローム粒(1~5mm大・微量)
- 3 暗黒灰色土 ロームブロック(5~10mm大・少量)
- 4 暗黒色土 ロームブロック(5~30mm大・少量だが均等)
- 5 暗黒褐色土 暗褐色土(均等)、ロームブロック(5~10mm大・少量)

### 2トレンチ



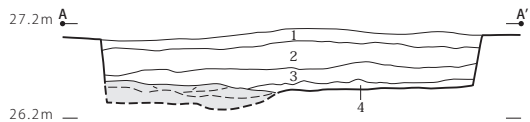
- 1 現表土 耕作攪乱表土
- 2 暗灰褐色土 ローム粒(1~5mm大・少量) しまりゆるい
- 3 暗黒褐色土 ローム粒(1~5mm大・少量)
- 4 暗黒褐色土 3より褐色味強い、ローム粒(1~5mm大・少量だが均等)

### 4トレンチ



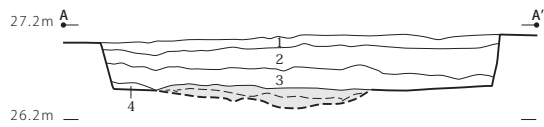
- 1 現表土 耕作攪乱表土
- 2 暗黒色土
- 3 暗灰褐色土 ロームブロック(10~20mm大・少量) しまりゆるい
- 4 暗黒褐色土 ロームブロック(5~10mm大・少量だが均等)、焼土粒(1~5mm大・微量)

### 6トレンチ

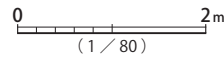


- 1 現表土 耕作攪乱表土
- 2 暗灰黒色土 灰色味強い
- 3 暗黒色土 暗褐色土少量混入
- 4 暗黒褐色土 黒色味強い、ロームブロック(5~10mm大・少量)

### 7トレンチ



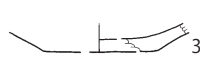
- 1 現表土 耕作攪乱表土
- 2 暗灰黒色土 灰色味強い
- 3 暗黒色土 暗褐色土少量混入
- 4 暗黒褐色土 黒色味強い、ロームブロック(5~10mm大・少量)



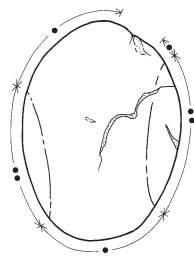
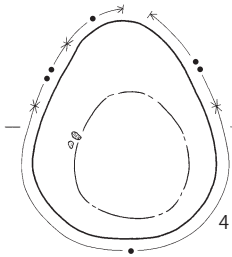
### 1トレンチ



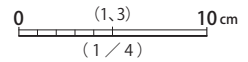
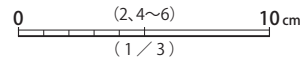
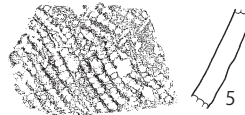
### 2トレンチ



### 3トレンチ

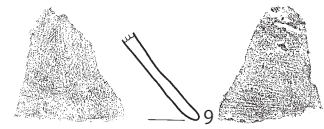
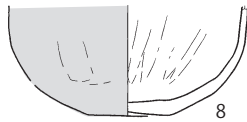


### 4トレンチ

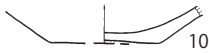


第12図 稲荷台遺跡(Q地点) 断面図・出土遺物 実測図(1)

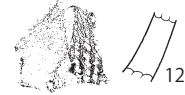
4トレンチ



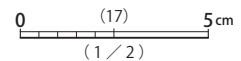
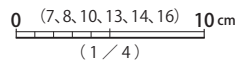
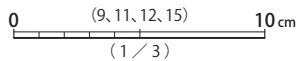
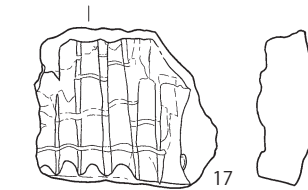
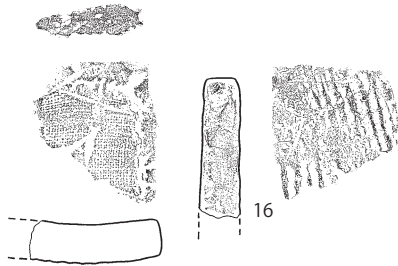
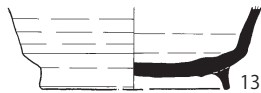
6トレンチ



8トレンチ



遺構外



第13図 稲荷台遺跡(Q地点) 出土遺物 実測図(2)

部片 15 が出土しており、中世前半期の遺構が存在している可能性がある。

他には、瓦塔の屋蓋部 17 が出土している。丸瓦等が表現されているが、軒裏部の表現が簡略化されている等、全体的に粗雑な印象を受ける。

引用参考文献

- 浅利幸一他 2003『市原市稲荷台遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告Ⅸ 財団法人市原市文化財センター
- 小川浩一 2020「稲荷台遺跡(O地点)」『令和元年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
- 小川浩一 2020『市原市稲荷台遺跡O地点』市原市教育委員会
- 高橋康男 2007「稲荷台遺跡L地点」『平成18年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
- 牧野光隆 2003「稲荷台遺跡」『平成14年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

## 5 西野遺跡群（権現堂地区）

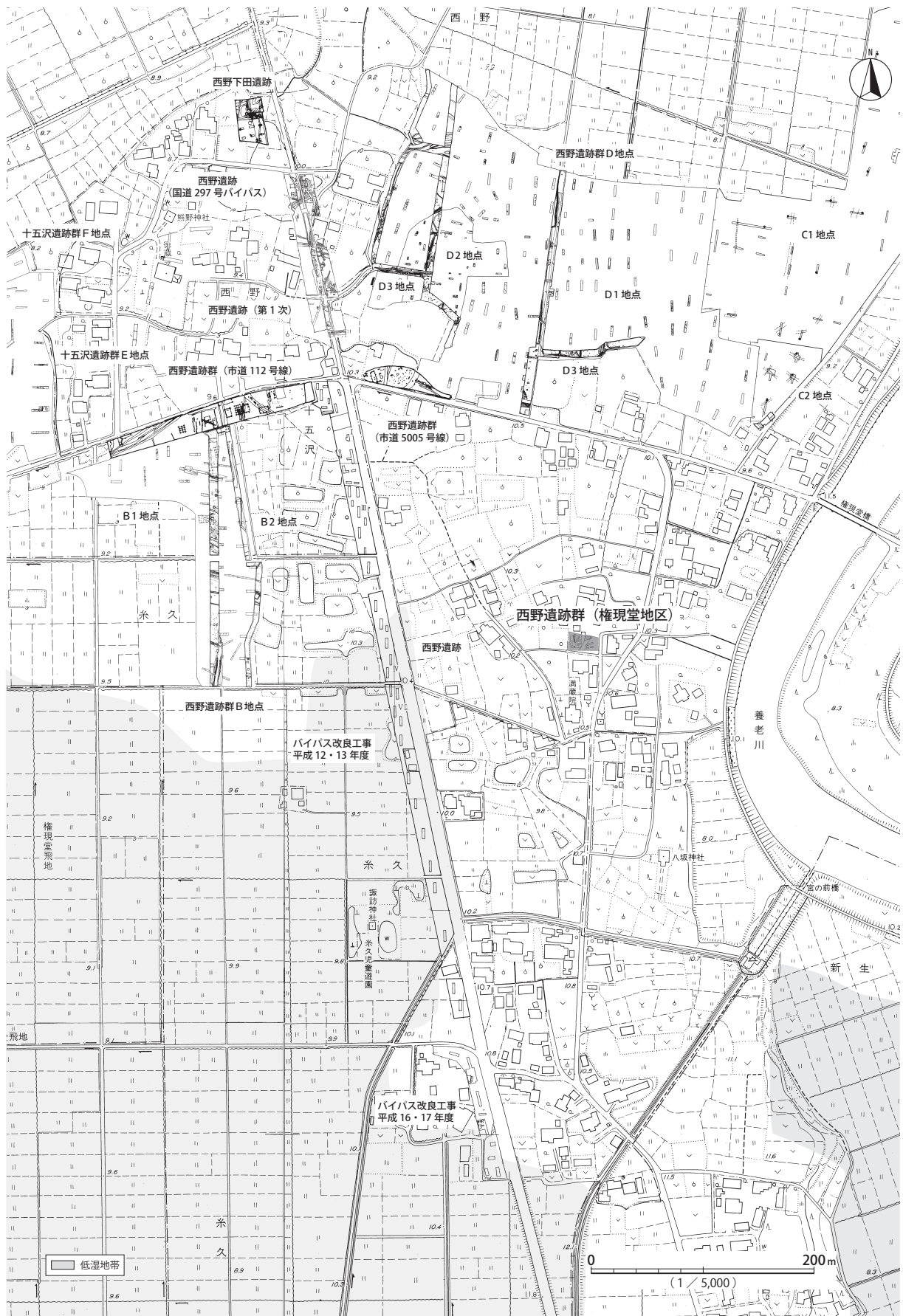
**遺跡の位置** 遺跡は、養老川中下流の左岸、川の流れが屈曲し、東京湾のある西へと大きく曲がる地点に形成された自然堤防上に所在する。満蔵院の北側、標高10m前後の微高地上に位置する調査区（第14図）周辺の調査事例は多く、市文化財センター分の発掘調査事例に限っても、A～Dの地区ごとに複数回の調査がなされている。当調査区に近いB～Dの例を挙げると、まず、北方約200mの位置から北に向かって広がる西野遺跡D地点では、D1・D2地点において平成14年に確認調査を、D3地点では平成15年に確認調査と本調査を実施している。掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構、井戸状遺構など遺構の種類も様々で、年代も8世紀前葉まで遡る可能性のある土坑から中世の掘立柱建物跡まで幅広い。また、烏帽子と思われる布状漆製品が出土したのもD3地点の41号遺構からである。また、北東約250mに位置するC地点においては、C1・C2地点において確認調査が実施され、C1地点では土坑及び溝状遺構などを捕捉し、中世期の遺物を少数だが確認している。C2地点は明確な遺構は近世の溝のみであった。調査区から西に約280m、西野遺跡群B地点では、平成12年度にB1地点の確認調査、平成13年度にB1地点の本調査、B2地点の本調査を実施している。掘立柱建物跡のほか、土坑及び溝状遺構、井戸状遺構が主体となっている。なお、北側に隣接する市道112号線部分において、平成14年度に調査が実施されており、そちらにおいても掘立柱建物跡が規則的に存在することが確認されている。また、国道297号バイパスが調査区の西側を通るため、千葉県文化財センターによる調査事例も多く、平成12・13年度には調査区西側約150mにおいて発掘調査が実施され、古代の掘立柱建物跡に加え、中世の掘立柱建物跡、溝状遺構、道路跡、柵列が見つかった。

**調査概要** 調査は個人住宅建設に伴う確認調査で、389.52㎡を対象に実施した。重要遺跡であることから基準点測量を実施し、調査区内に5m四方のグリッドを設け、調査区に対して均等になるよう1～8のトレンチを設定した。なお、自然堤防上の立地であるが、水田耕作に用いられてきた土地柄であるため、宅地化するために多量の客土が搬入されていた。1トレンチで井戸状遺構SE001とSE002、2トレンチで井戸状遺構SE003、中世の土坑SK001、5トレンチで井戸状遺構SE004とSE005を捕捉したことから、当地が豊富な地下水源を利用して、井戸が長期にわたり掘られ続けた土地であることが判明した。その後、宅地の基礎範囲である106㎡を対象に本調査が実施される運びとなった。

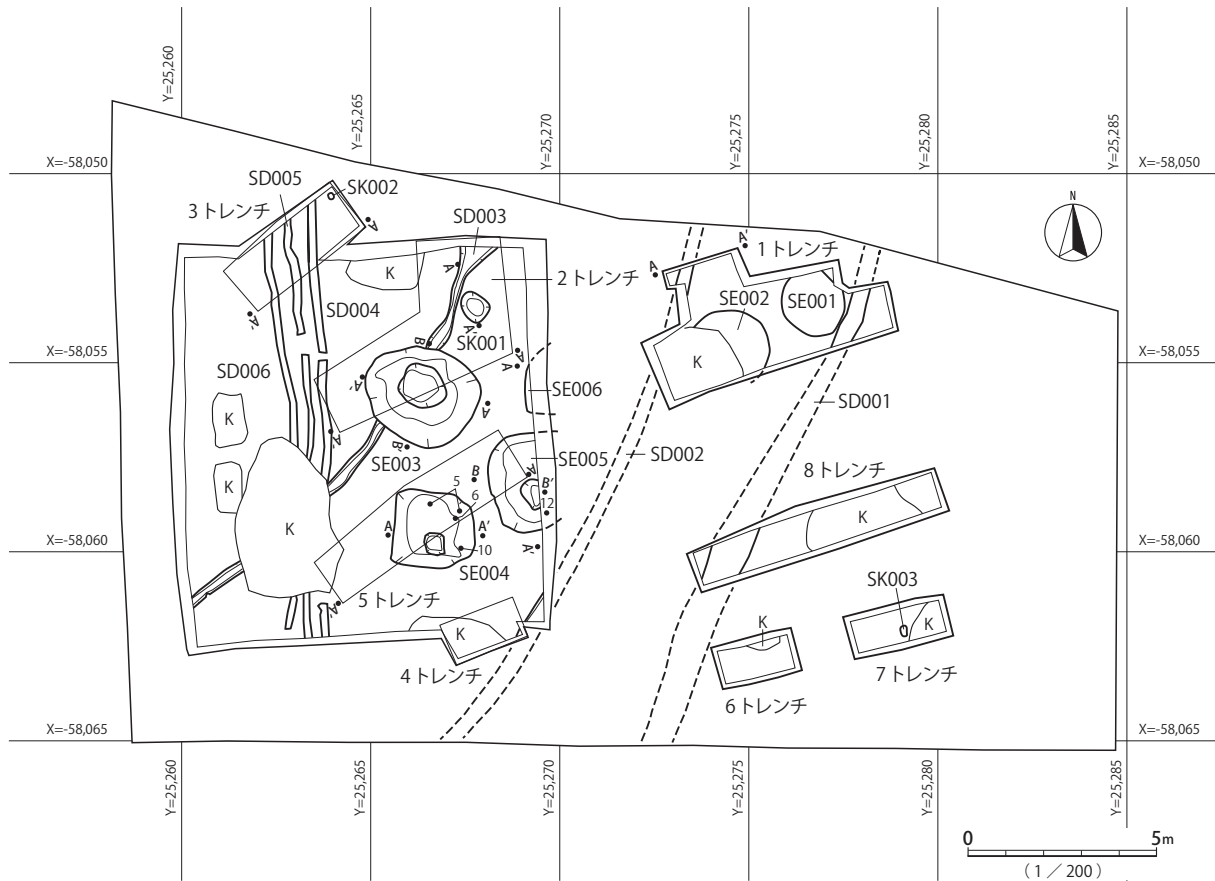
本調査は遺構の平面プラン確認段階で、排水溝やマスなどを設定し、湧水対策をした。

**遺構と遺物** 1トレンチで検出されたSE001からは、法第93条受理後の試掘時に、1の稻荷台遺跡Ⅱ期-b（浅利他2003）併行期と思われる土師器杯が遺構上面より見ついている。また、確認調査では、図示には至らない9世紀代と思われる土師器杯の小片が検出されている。平面観察をすると、SE001及びSE002遺構の周囲に同心円状にヒビが入っていることが見てとれた。これは遺構が長期にわたり開口していたため、井戸の壁面が次第に崩れていった形跡である。なお、排水作業のためSE002を切る攪乱土を一部除去した結果、覆土の堆積状況が確認できた。周囲の井戸状遺構に比べると一回の土砂の流入は多く、埋没は比較的短期間で終わったものと思われる。土中に大型の明黄褐色のブロックを含んでいたため、井戸壁面の崩落後、井戸として使用ができなくなり人為的に埋め

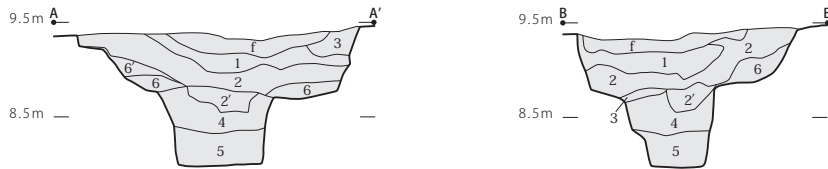




第14図 西野遺跡群(権現堂地区)周辺地形図

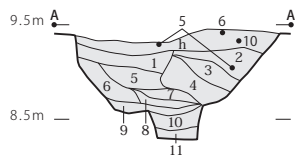


### SE003

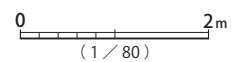


- f 10YR3/3 暗褐色土 SE003 覆土 粘性あり しまり強い 5～20mmの10YR7/6 明黄褐色粒多く混じる 5～10mmの10YR6/2 灰黄褐色粒多く混じる トレンチ土層f層と共通
- 1 7.5YR6/6 橙色土 SE003 覆土 粘性ややあり しまりややあり 10～30mmの7.5YR3/1 黒色ブロック含む
- 2 7.5YR3/1 黒褐色土 SE003 覆土 粘性あり しまりあり 10～30mmの7.5YR6/6 橙色ブロック少量含む
- 2' 5B3/1 黒褐色土 SE003 覆土 粘性あり しまりあり 2層と同一の層だが、地下水の影響を受け青く変色する
- 3 7.5YR3/1 黒褐色土 SE003 覆土 井戸枠残欠あり 粘性強い しまり強い 2層よりやや暗い 7.5YR6/6 明褐色の木の皮の残欠を少量と白色微粒ごく少量含む
- 4 7.5YR2/1 黒色土 SE003 覆土 粘性強い しまり強い 一部に少量の7.5YR5/6 明褐色の粒子(井戸枠の残欠)含む 10～40mmの2.5GY暗オリーブ灰色ブロック混じる 白色微粒多く含む
- 5 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色土 SE003 覆土 粘性あり しまり強い まだら状に水分のサビ入る
- 6 7.5YR6/6 橙色土 SE003 覆土 粘性あり しまり強い レンズ状堆積
- 6' 7.5YR6/6 橙色土 SE003 覆土 粘性あり しまり強い 2層と6層が混濁する

### SE004

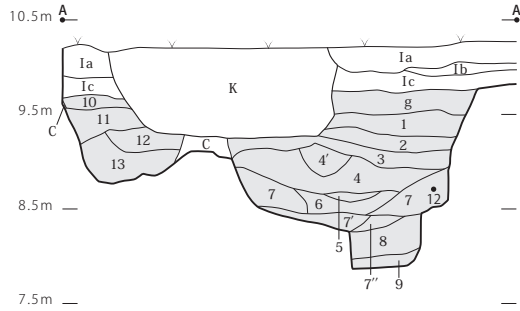


- h 10YR2/2 黒褐色土 SE004 覆土 粘性ややあり かなり固くしまる 10～20mmの10YR6/6 明黄褐色粒多く混じる
- 1 2.5Y3/1 黒褐色土 SE004 覆土 粘性あり しまりあり 20～40mmの10YR7/4 黄褐色ブロックごく少量混じる
- 2 2.5Y7/6 明黄褐色土 SE004 覆土 粘性あり しまりあり 2～5mmの2.5Y3/1 黒褐色粒少量混じる
- 3 2.5Y6/6 明黄褐色土 SE004 覆土 粘性あり しまりややあり 2.5Y3/2 黒褐色土が流れ込む
- 4 2.5Y6/6 明黄褐色土 SE004 覆土 粘性あり しまりあり 10～20mmの2.5Y4/1 灰黄色粒混じる
- 5 2.5Y3/1 黒褐色土 SE004 覆土 粘性あり しまりあり 10～40mmの2.5Y6/6 明褐色ブロック含む
- 6 2.5Y6/6 明黄褐色土 SE004 覆土 粘性あり しまりあり 10mm程の2.5Y3/1 黒褐色粒混じる
- 7 2.5Y3/2 黒褐色土 SE004 覆土 粘性あり しまりあり 一部に10～15mmの明褐色粒子含む
- 8 7.5YR5/8 明褐色土 SE004 覆土 粘性あり しまり強い 5～10mmの7.5YR6/6 橙色粒子多く含む
- 9 7.5YR3/2 黒褐色土 SE004 覆土 粘性あり しまりあり 5～15mmの7.5YR6/6 橙色粒子多く含む
- 10 5GY2/1 オリーブ黒色土 SE004 覆土 粘性あり しまりあり 10～20mmの7.5YR2/1 黒色ブロック含む
- 11 5GY4/1 暗オリーブ灰色土 SE004 覆土 粘性あり しまりややあり 粒子細かい 湧水あり

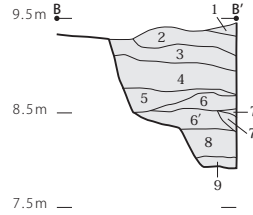


第15図 西野遺跡群(権現堂地区) 平面図・断面図(1)

SE005・SE006



SE005



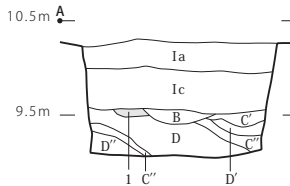
- Ia 7.5YR4/4 褐色土 客土 粘性ややなし しまりややあり 7.5YR7/2 明灰色の砂、7.5YR3/4 暗褐色のサビ混じる 粒子粗く、砂っぽい
- Ib 2.5YR7/2 灰黄色土 砂層 粘性なし しまりなし 下部に 5YR6/6 橙色のサビ、数ミリの厚さで堆積する
- Ic 10YR3/3 暗褐色土 水田の土が堆積した層 粘性ややあり しまりややあり 粒子細かい有機質土、近世の水田の土が堆積したもの
- C 10YR8/4 浅黄褐色土 地山 粘性あり しまりあり 粘質土 水はけ悪く、一部に 10YR3/1 黒褐色ブロック混じる
- g 10YR3/3 暗褐色土 SE005 覆土 粘性あり しまりややあり 50 ~ 300mm の 2.5YR 暗灰色ブロック多く混じる 2.5YR4/4 オリーブ褐色のサビ混じる
- 1 10YR5/1 褐色土 SE005 覆土 粘性ややあり しまりあり 5 ~ 20mm の 10YR8/1 灰白色粒子含む
- 2 10YR5/1 褐色土 SE005 覆土 粘性ややあり しまりややあり 50 ~ 100mm の 10YR8/1 灰白色ブロック多く混じる
- 3 10YR3/2 黒褐色土 SE005 覆土 粘性あり しまりややあり 白色微粒含む
- 4 10YR7/4 にぶい黄褐色土 SE005 覆土 粘性あり しまり強い 部分的に 7.5YR6/6 橙色のサビ含む
- 4' 10YR7/4 にぶい黄褐色土 SE005 覆土 粘性あり しまりあり 有機質の黒い粒混じる
- 7 7.5YR5/6 明褐色土 SE005 覆土 粘性あり しまりあり 4 層よりサビの比率多い
- 6 7.5YR6/6 褐色土 SE005 覆土 粘性ややあり しまり強い 5 層よりサビの比率少ない
- 6' 7.5YR6/6 褐色土 SE005 覆土 粘性ややあり しまり強い 6 層よりやや赤みがかかる
- 7 5Y3/1 オリーブ黒色土 SE005 覆土 粘性あり しまりあり 10 ~ 30mm の 2.5YR5/6 明褐色ブロック多く含む
- 7' 5Y3/1 オリーブ黒色土 SE005 覆土 粘性あり しまりあり 明赤褐の粒子の比率少ない 地下水の影響を受けやや青みがかかる
- 7'' 10BG3/1 暗青灰色土 SE005 覆土 粘性あり しまり強い 地下水の影響を受けて変色した 7 層
- 8 5GY2/1 オリーブ黒色土 SE005 覆土 粘性あり しまりあり ごく微量の 5YR4/6 赤褐色の木の皮の残欠含む
- 9 5GY4/1 暗オリーブ灰色土 SE005 覆土 粘性あり しまりあり 湧水あり 井戸底部分
- 10 5Y4/1 オリーブ灰 SE006 覆土 粘性強い しまりあり 10 ~ 15mm の 10YR4/4 褐色粒子少量含む
- 11 10YR3/3 暗褐色 SE006 覆土 粘性あり しまりややあり 30 ~ 50mm の 10YR6/6 明黄褐色ブロック多く含む
- 12 10YR7/4 にぶい黄褐 SE006 覆土 粘性あり しまり強い 5 ~ 10mm の 4/1 褐色粒混じる
- 13 5Y3/1 オリーブ黒 SE006 覆土 粘性あり しまりあり 粒子細かい

SK001・SD003

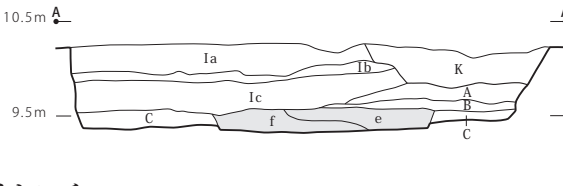


- C 10YR8/4 浅黄褐色土 地山 粘性あり しまりあり 粘質土 水はけ悪く、一部に 10YR3/1 黒褐色ブロック混じる
- 1 10YR4/4 褐色土 SD003 覆土 粘性ややなし しまりややなし 粒子細かい
- 2 10YR2/3 黒褐色土 SK001 覆土 粘性あり しまりややなし 10YR4/6 褐色粒子少量混じる

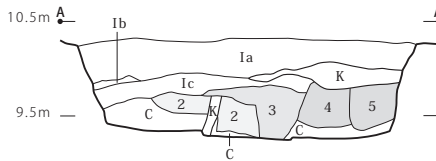
1 トレンチ



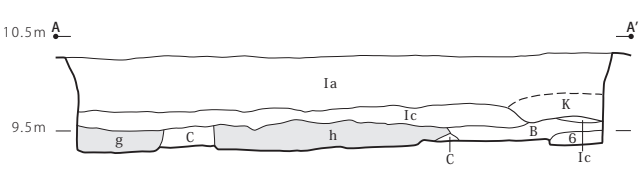
2 トレンチ



3 トレンチ

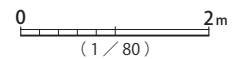


5 トレンチ

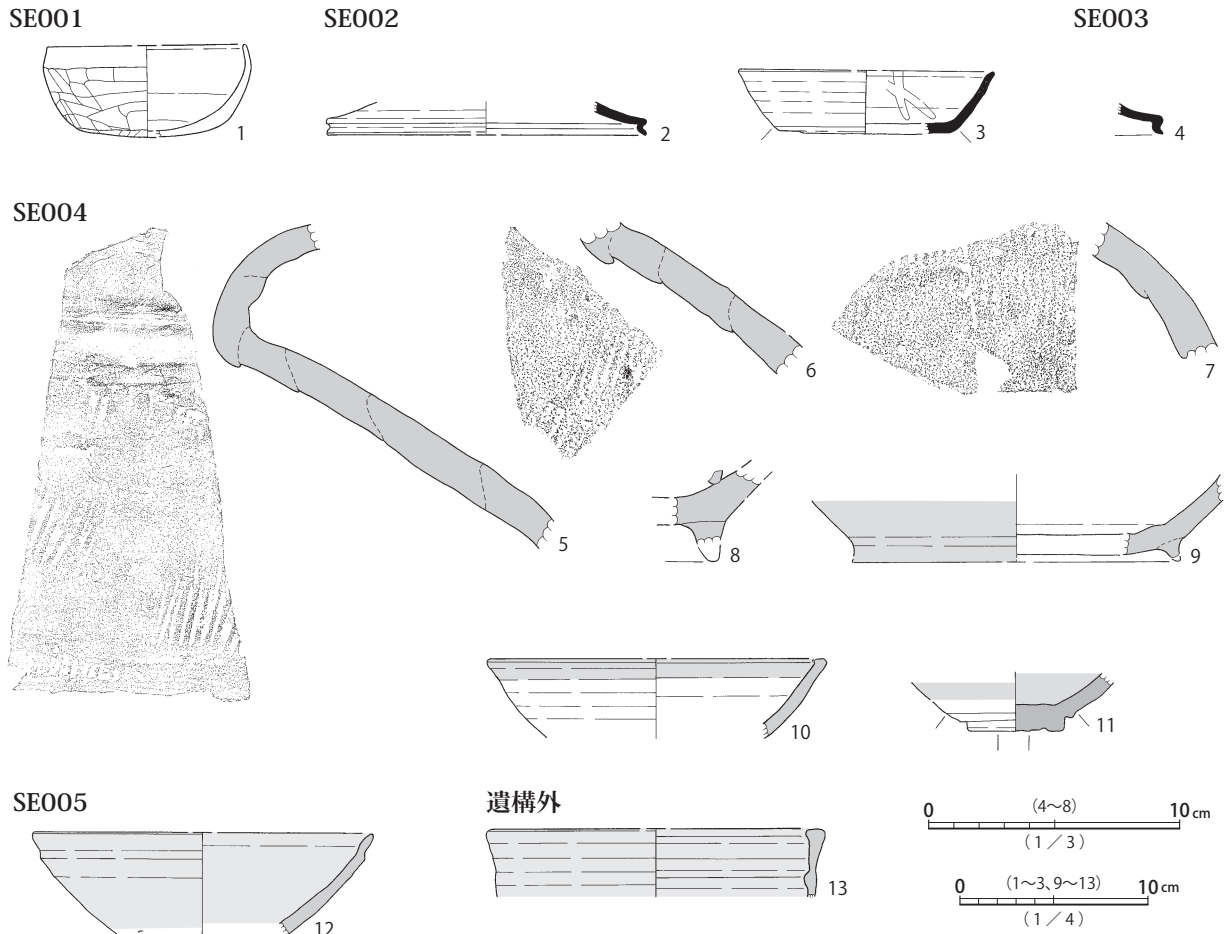


1・2・3・5 トレンチ A-A'

- Ia 7.5YR4/4 褐色土 客土 粘性ややなし しまりややあり 7.5YR7/2 明灰色の砂、7.5YR3/4 暗褐色のサビ混じる 粒子粗く、砂っぽい
- Ib 2.5YR7/2 灰黄色土 砂層 粘性なし しまりなし 下部に 5YR6/6 橙色のサビ、数ミリの厚さで堆積する
- Ic 10YR3/3 暗褐色土 水田の土が堆積した層 粘性ややあり しまりややあり 粒子細かい有機質土、近世の水田の土が堆積したもの
- A 10YR7/6 明黄褐色土 自然堆積 粘性あり しまりあり 5 ~ 10mm の 7.5YR3/1 黒褐色粒多く含む
- B 10YR2/3 黒褐色土 洪水堆積 粘性ややあり しまりあり 10YR4/4 褐色のサビ混じる 氾濫の痕跡
- C 10YR8/4 浅黄褐色土 地山 粘性あり しまりあり 粘質土 水はけ悪く、一部に 10YR3/1 黒褐色粒混じる
- C' 10YR8/4 浅黄褐色土 洪水堆積 粘性あり しまりややあり C 層の土と似るが 10YR2/3 黒褐色土少量混じる サビの混じりあり
- C'' 10YR8/4 浅黄褐色土 洪水堆積 粘性ややあり しまりややあり C 層より砂の比率が多い
- D 10YR2/3 黒褐色土 洪水堆積 粘性なし しまりややなし 洪水による流路の堆積
- D' 10YR2/3 黒褐色土 洪水堆積 粘性なし しまりややなし D 層と似た土質であるが、時期の異なる堆積
- D'' 10YR2/3 黒褐色土 洪水堆積 粘性なし しまりややなし D 層よりやや暗い、時期の異なる堆積
- e 10YR3/1 黒褐色土 SE003 覆土 粘性あり しまり強い 2 ~ 5mm の 10YR5/6 黄褐色粒多く混じる
- f 10YR3/3 暗褐色土 SE003 覆土 粘性あり しまり強い 5 ~ 20mm の 10YR7/6 明黄褐色粒混じる 5 ~ 10mm の 10YR6/2 灰黄褐色粒多く混じる
- g 10YR3/3 暗褐色土 SE005 覆土 粘性あり しまりややあり 50 ~ 300mm の 2.5YR 暗灰色ブロック多く混じる 2.5YR4/4 オリーブ褐色のサビ混じる
- h 10YR2/2 黒褐色土 SE004 覆土 粘性ややあり かなり固くする 10 ~ 20mm の 10YR6/6 明黄褐色粒多く混じる
- 1 10YR2/3 黒褐色土 SD001 覆土 粘性なし しまりややなし 周囲より粒子細かい、やや灰色がかかる
- 2 7.5YR3/1 黒褐色土 SD004 覆土 粘性あり しまりあり 2 ~ 5mm の 10YR8/4 浅黄褐色土、粒状に少量混じる
- 3 7.5YR4/1 褐色土 SD005 覆土 粘性ややあり しまりややあり 10YR8/4 浅黄褐色土、マール状にやや混じる
- 4 7.5YR3/3 黒褐色土 SD006 覆土 粘性ややあり しまりややあり 30 ~ 100mm の 10YR8/4 浅黄褐色ブロックやや混じる、上部からやや攪乱される
- 5 7.5YR4/1 褐色土 SD006 覆土 粘性ややあり しまりややあり 10YR8/4 浅黄褐色土、マール状にやや混じる
- 6 10YR3/3 暗褐色土 自然堆積 粘性あり しまりややなし 5YR5/6 明赤褐色のサビ、白色微粒混じる



第16図 西野遺跡群(権現堂地区)断面図(2)



第17図 西野遺跡群(権現堂地区) 出土遺物 実測図

戻された可能性も高い。また、SE002から攪乱土をはがす際に、2・3の永田・不入窯Ⅲ～Ⅳ期の須恵器が確認されており、遺構の年代が8世紀後半よりは確実に新しいことがわかるが、これらの遺物は遺構に伴わず、流入土に混入していた可能性が非常に高い。先に述べたように、井戸状遺構の上面から古代の遺物が出土しているものの、井戸の廃絶年代は一概に古代とは言えないだろう。周辺状況を鑑みて古代～中世の井戸としたい。覆土の様子からSE001も比較的近い時代の井戸と思われる。なお、覆土から中世の溝状遺構と思われるSD001・002も検出した。SD001は8トレンチ、SD002は4トレンチにおいてもそれぞれ捕捉している。なお8トレンチ精査中に、図示には至らない渥美産甕の小片が見つかったが、SD001に由来するかは判然としなかった。3トレンチでは中世の土坑SK002と近世の溝状遺構SD0004・005・006の3条が見つかった。2・5トレンチは本調査区に完全に重なるため割愛する。6トレンチでは遺構遺物は確認されず、7トレンチでは中世の土坑SK003が確認された。確認調査終了後、本調査を実施し、SE003・004・005を中心に調査を進めた。SE003からは4の東海産須恵器のほか、図示には至らない大きさの、9世紀のものと見られる灰釉陶器瓶壺類の小片が覆土内から見つかった。4層にはかつての木柵の残骸と考えられる微細な木片が混じっていた。木片以外は埋没の過程で混入したと考えられるため、古代～中世の遺構と判断したい。SE004は比較的上層で5・6の渥美産広口壺・甕、8・9の常滑産片口鉢、10の美濃産の播鉢型小鉢が見つかり、15世紀後半には廃絶された井戸であると推測できた。また、SE005から

は12の古瀬戸後期様式後Ⅱ～Ⅲ期の平碗が見つかっており、こちらも多少の時代差はあっても15世紀中葉には埋まっていたものと考えられる。なお、SE006は遺構の大半が本調査区外に出ているため、遺物などは発見できなかった。また、遺構外の遺物として、瀬戸・美濃系大窯の筒型容器・壺の破片などに加え、近世のカワラケや陶器も出土している。

以上の調査結果から、当調査区は自然堤防上にあつて長期間井戸が掘られ水源として利用され続けた土地であると言える。建築物の遺構は確認できなかったが、本調査における中世遺物のm<sup>2</sup>密度は0.12点であり（第1表）、房総における中世遺跡としては高い数値である（北見他2019）。このことは、当地で相当の活動が行われていたことを示唆する。

第1表 中世陶磁器類の集計表

産地	器種	型式	点数		重量 (g)		転用砥石	
			総数	口縁数	総量	口縁量	点数	重量 (g)
瀬戸・美濃系陶器	計		5	3	183.6	76.2	0	0.0
	平碗	古瀬戸後期様式Ⅱ～Ⅲ期	1	1	47.7	47.7	0	-
		古瀬戸後期様式 後Ⅱ	1	0	81.0	-	0	-
	筒形容器	大窯	1	1	13.5	13.5	0	-
	壺	大窯	1	0	26.4	-	0	-
	播鉢型小鉢	美濃 播鉢型小鉢 後Ⅲ期以降	1	1	15.0	15.0	0	-
渥美産陶器	計		3	1	546.0	347.0	1	347.0
	甕	12世紀	2	0	199.0	-	0	-
	広口壺	12世紀	1	1	347.0	347.0	1	347.0
常滑産陶器	計		3	0	314.5	0.0	2	280.5
	甕	12世紀	1	0	182.5	-	1	182.5
	片口鉢	片口鉢Ⅰ類 4～5型式	2	0	132.0	-	1	98.0
中世陶器	計		2	1	10.3	2.2	0	0.0
	碗	不明	2	1	10.3	2.2	-	-
総計			13	5	1054.4	425.4	3	627.5

#### 参考文献

- 浅利幸一他2003『市原市稲荷台遺跡』上総国分寺台遺跡調査報告Ⅸ 財団法人市原市文化財センター  
 今泉 潔他1989『市原市西野遺跡・白山遺跡・村上遺跡発掘調査報告書』財団法人千葉県文化財センター  
 小川浩一他2005『市原市海上地区遺跡群』財団法人市原市文化財センター  
 北見一弘他2019『市原市棗塚遺跡』市原市教育委員会  
 鈴木弘幸 2006『市原市西野遺跡 国道道路改築委託埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』財団法人千葉県文化財センター  
 高梨俊夫 1996『市原市西野遺跡第1次発掘調査報告書』財団法人千葉県文化財センター  
 土屋治雄 2006『市原市西野遺跡 国道道路改築委託埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』財団法人千葉県文化財センター  
 土屋治雄 2006『市原市西野遺跡 国道道路改築委託埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』財団法人千葉県文化財センター  
 牧野光隆 1999『西野遺跡A地点』『市原市文化財センター年報（平成10年度）』財団法人市原市文化財センター  
 渡邊高弘 1997『市原市西野遺跡第2次発掘調査報告書』財団法人千葉県文化財センター

## 第2表 出土遺物観察表

凡例：寸法の( )は現存値、?は推定復元値を示す。

### 郡本遺跡群(第25次)土器等観察表

種別 No.	図版 No.	遺物 No.	トレン チNo.	遺構 No.	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm		焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	高さ			底径	器高	外面	内面	
4	6	1	-	1	SD01 1 一括	土師器	杯	底部	1/8	-	5.0?	良好	密 0.1~0.2mm 大の黒灰色粒少量含む、0.3mm 大の赤褐色粒微量含む	7.5YR7/4 にぶい 橙	10YR2/1 黒	体部下端、ヘラケズリ	ヘラミガキ・黒色処理	反転復元
4	6	2	-	1	SD01 1 一括	緑釉陶器	碗	口縁	小片	-	(1.8)	良好	緻密 0.1mm 大の黒色粒少量含む	7.5Y7/3 浅黄	7.5Y7/3 浅黄	ロクロ調整	ロクロ調整	内・外面、全面施釉
4	6	3	-	1	SD01 1 一括	土師器	小皿	口縁部~ 底部	3/5	8.5?	1.7	良好	密 0.1~0.2mm 大の黒色粒少量だが均等に含む、0.4~0.8mm 大の赤褐色粒微量含む	5YR7/8 橙	7.5YR7/6 橙	ロクロ調整・底部、静止 米切り	ロクロ調整	一部復元 胎土、比較的均質な土

### 郡本遺跡群(第25次)石器観察表

種別 No.	図版 No.	遺物 No.	トレン チNo.	遺構 No.	注記	種別	残存	長軸	短軸	寸法 cm/g		色調	備考
										高さ	重量		
4	6	4	-	1	SD01 2 一括	磨石	1/4	(5.9)	(4.1)	(3.3)	(115.3)	2.5Y6/1 黄灰	輝石安山岩 上面の磨耗痕著しい

### 稲荷台遺跡(P地点)土器等観察表

種別 No.	図版 No.	遺物 No.	トレン チNo.	遺構 No.	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm		焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高			底径	器高	外面	内面	
10	6	1	19	-	セ576 19T 3・4	縄文土器	深鉢	胴部	小片	-	(9.6)	やや甘い	粒子粗い、1~2mm 前後の黒色微粒・小礫多量含む、7~10mm 程度の小礫少量含む	10YR6/6 明黄褐	7.5YR7/6 橙	無筋縄文Rの斜縄文→社 器面荒れる・開口部へ広 がる屈曲部が残る	縄文式か?	
10	6	2	12	確	セ576 SD1 2	灰釉陶器	碗	胴部~ 底部	底部 1/2 以上	-	(2.8)	良好	密 3mm 前後の小礫含む、白色微粒少量含む	2.5Y7/2 灰黄	調整：2.5YR7/2 灰黄 釉薬部分：5Y6/2 灰 オリーブ	見込より上、ハケ塗り に併行する	一部復元 9世紀 K-14 号窯式明 に併行する	
10	6	3	12	確	セ576 12T SD1 一括	須臾器	杯	底部 1/4 以下	底部 1/4 以下	-	(2.0)	良好	密 白色微粒多量含む、3mm 前後の小礫・海綿骨針含む	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	ロクロナデ→ヘラケズ リ・火漕による色むらあ り	反転復元 永田・不入窯皿期	
10	6	4	12	確	セ576 SD1 10	土師器	杯	底部	1/2 以下	-	(2.3)	良好	密 焼成良好 1mm 以下の黒色微 粒・海綿骨針含む、白色微粒少量含む、 1mm 前後の小礫含む	7.5YR7/4 にぶい 橙	7.5YR7/4 にぶい 橙	回転糸切り→底部の一 部、手持ちヘラケズリ→ 体部、下段手持ちヘラケ ズリ	一部復元 9世紀	
10	6	5	12	確	セ576 SD1 9	土師器	杯	底部~ 胴部	底部 1/3 以下	-	(5.2)	堅緻	白色微粒少量含む、1mm 以下の小礫ご く微量含む	7.5YR6/6 橙	5Y3/1 オリーブ黒	糸切後、体部下半及び底 部、回転ヘラケズリ	反転復元 9世紀	
10	6	6	12	確	セ576 SD1 5	土師器	台付鉢 (器座)	底部	底部 1/2 以下	-	(2.3)	良好	密 白色微粒・海綿骨針含む	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	ヘラケズリ、外面よりや や丁寧	一部復元 稲荷台遺跡皿期-b	
10	6	8	20	-	セ576 20T 一括	土師器	裏	口縁~ 胴部	1/4 以下	19.2?	(6.5)	良好	やや粗い 顕微鏡多量含む 1mm 以下の白色微粒含む	7.5YR5/6 明褐	7.5YR7/6 橙	縦方向ケズリ	反転復元 9世紀	

### 稲荷台遺跡(P地点)瓦観察表

種別 No.	図版 No.	遺物 No.	トレン チNo.	遺構 No.	注記	種別	残存	寸法 cm		焼成	色調		特徴		備考
								全長	幅		厚さ	重量	外面(凸面)	内面(凹面)	
10	6	7	12	確	セ576 SD1 4	瓦	小片	(8.7)	(5.5)	2.3	良好	密 1mm 以下の白色微粒多量含む、黒 色微粒・顕微鏡多量含む、海綿骨針ごく微 量含む	2.5Y6/2 灰黄	7.5YR6/6 橙	粘土板一枚造り・糸切後、8世紀中~後半 還元や甘い 布目がつく

稲荷台遺跡(Q地点)土器等観察表

種目 No.	図版 No.	遺物 No.	遺構 No.	注記	種別	器種	部位	周廻存	寸法 cm		焼成	胎土	色調		特徴		備考
									口径	器高			底径	外面	内面	外面	
12	6	1	1	2トレ1 一括	土師器	甕	底部	4/5	—	3.6	良好	密 0.1~0.3mm大の白色粒少量含む、 0.2~0.3mm大の海面背斜状粒少量含む	2.5YR6/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	ヘラナデ	ヘラナデ	
12	7	2	2	3トレ1 一括	縄文土器	深鉢	胴部	小片	—	—	良好	やや粗 0.3~1.2mm大の白色粒均等に含む	2.5YR3/1 暗赤灰	2.5YR3/6 明赤褐	RIの斜縄文施す	ナデ	
12	7	3	2	3トレ1 一括	土師器	甕	底部	1/4	—	5.8?	やや不良	密 0.1~0.2mm大の白色粒少量含む、 0.2mm大の石炭粒少量含む	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	ヘラケズリ	ヘラナデ	反転復元
12	7	5	4	5トレ3 一括	縄文土器	深鉢	胴部	小片	—	—	良好	やや粗 0.1~0.2mm大の黒色粒少量含む、 0.1mm大の白色粒少量含む	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR7/4 にふい、橙	LRの斜縄文施す	ナデ	
12	7	6	4	5トレ3 一括	弥生土器	壺	口縁部	小片	—	—	良好	密 0.1mm大の白色粒少量含む、 0.1mm大の黒色粒少量含む	5YR4/2 灰褐	5YR4/2 灰褐	ヨコナデ・口唇部、縄文 彫体による刻み目施す	ヨコナデ、ヨコナデ・一部、強いヘ ラナデ	
13	7	7	4	5トレ1 一括	土師器	壺	口縁部	1/10	16.0?	—	良好	密 0.1mm大の白色粒少量含む、0.1 ~0.3mm大の黒色粒少量含む	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	口唇部、ヨコナデ・胴部、 やや強いヘラナデ	口唇部、ヨコナデ・胴部、 やや強いヘラナデ	反転復元
13	6	8	4	5トレ2	土師器	小型 短頸甕	胴~底部	1/3	—	—	良好	密 0.1~0.2mm大の黒色粒少量だが 均等に含む、0.2~0.25mm大の白色 粒少量含む、0.1~0.15mm大の石英 粒少量含む	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	ヘラナデ・赤彩	ヘラナデ	一部復元
13	7	9	4	5トレ3 一括	土師器	高杯	胴部	小片	—	—	良好	密 0.1mm大の白色粒少量含む、0.1 ~0.2mm大の石炭粒少量含む	5YR5/6 明赤褐	7.5YR5/6 明褐	ハケメ・裾部、ナデ	ハケメ	
13	7	10	4	5トレ4	土師器	甕	底部	2/5	—	—	良好	密 0.1~0.2mm大の黒色粒少量含む、 0.2mm大の石炭粒少量含む	7.5YR4/3 褐	5YR5/6 明赤褐	ヘラケズリ	ヘラナデ	反転復元
13	7	11	6	7トレ1 一括	弥生土器	壺	胴部	小片	—	—	良好	密 0.1~0.2mm大の黒色粒少量含む、 0.1mm大の白色粒少量含む	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	縄文で区画された斜縄 文帯に、縦縄文施す	ヘラナデ	
13	7	12	8	9トレ2	縄文土器	深鉢	胴部	小片	—	—	良好	密 0.1~0.2mm大の黒色粒少量だが 均等に含む、0.2mm大の白色粒少量含む	7.5YR6/4 にふい、橙	7.5YR6/6 橙	LRの斜縄文施す	ナデ・一部、やや強いナ デ	
13	6	13	—	遺構外	須臾器	高台付杯	体部中位 ~底部	2/5	—	—	良好	緻密 0.3~1.0mm大の白色粒少量だ が均等に含む	2.5Y5/1 灰	5Y6/1 灰	ロクロ調整	ロクロ調整	反転復元
13	7	14	—	遺構外	須臾器	長頸甕	胴部下端 ~底部	1/8	—	—	良好	緻密 白色粒(0.2~1.0mm大・微 量)・黒色粒(0.1~0.2mm大・少量だ が均等に含む)	10YR7/1 灰白	10YR5/1 褐灰	ロクロ調整	ロクロ調整	反転復元 高台部、剥落
13	7	15	—	遺構外	青磁	杯	口縁部	小片	—	—	良好	緻密 黒色粒(0.1mm大・微量)	2.5GY6/1 オリーブ灰	2.5GY6/1 オリーブ灰	ロクロ調整	ロクロ調整	龍泉窯系

稲荷台遺跡(Q地点)石器観察表

種目 No.	図版 No.	遺物 No.	遺構 No.	注記	種別	残存	寸法 cm/g			色調		備考
							長軸	短軸	高さ	重量	長軸	
12	7	4	3	—	磨石	完形	8.70	7.30	6.40	521.9	2.5Y5/2 暗灰黄	砂岩 背面の中央付近、摩耗痕著しい 一部、熱を受け、赤色を呈する 破り隙として、再利用か

稲荷台遺跡(Q地点)瓦・瓦塔観察表

種目 No.	図版 No.	遺物 No.	遺構 No.	注記	種別	器種	残存	寸法 cm/g		焼成	胎土	色調		特徴		備考	
								全長	厚さ			凸面(軒裏面)	凹面(瓦表面)				
13	7	16	—	遺構外	瓦	平瓦	狭端面及び 右側縁部、 一部現	(7.3)	(7.0)	2.1	良好	密 0.1~0.3mm大の黒色粒少量だが 均等に含む、0.1~0.2mm大の白色粒 少量含む	10YR5/2 灰黄褐	2.5YR6/1 黄灰	細目痕	目痕	
13	7	17	—	遺構外	瓦塔	瓦塔部片	屋簷部片	(4.1)	(4.8)	1.32	良好	密 0.5~0.8mm大の白色粒少量だが 均等に含む、0.1~0.2mm大の黒色粒 少量含む、0.3~0.5mm大の赤褐色粒 微量含む	5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	垂木部分、ヘラ木工具に よる削り出しにより表現 し引きにより、瓦表現 か	半截竹管状工具による押 引により、瓦表現 全体的に、粗雑な作り	

西野遺跡群（権現堂地区）土器観察表

図版 No.	遺物 No.	トレンチ No.	遺構 No.	注記	種別	器種	部位	周遺存	寸法 cm/g		焼成	胎土	色調		特徴		備考
									口径	器高			底径	外面	内面	外面	
17	6	1	SE001	セ581 SR1P1 試	土師器	杯	口縁～ 底部	1/3以下	10.4?	7.5?	良好	密 黒雲母含む、1mm以下の白色微粒・海綿状微粒ごく微量含む	7.5YR7/6緑	10YR7/4に多い赤褐色 →口縁部、ロクロナデ	体部及び底部、横方向へナデ→口縁部、ロクロナデ	反転還元 行向 権現堂遺跡I期-bに伴	
17	7	2	SE002	セ581 SR1P2 カケ一拵	須臾器	蓋	下部部	1/8以下	17.0?	—	良好	密 1mm以下の黒粒ごく微量に含む	5Y7/2 灰白	ロクロナデ(底から見て 時計回り)・下部部、折 り曲げて成形・棒状工具 によるヨコナデ	反転還元 永田・不入深Ⅲ期(8世紀 後半)		
17	7	3	SE002	セ581 SR1P2 カケ一拵	須臾器	盤	口縁～ 底部	1/8以下	13.4?	9.0?	極めて 良好	密 1mm以下の黒色微粒ごく微量含む	5Y6/1 灰	ロクロナデ(底から見て 時計回り)・黒褐色の 火輪あり	反転還元 永田・不入深Ⅲ～Ⅳ期 (8世紀後半)		
17	7	4	SE003	セ581 2トレ 002A一拵	須臾器	蓋	下部部	小片	—	(1.2)	極めて 良好	密 1mm以下の白色微粒少量含む	10Y4/1 灰	ロクロナデ	東海原須臾器		
17	7	5	SE004	セ581 005号 7	瀬美	広口壺	口縁～ 体部	1/10以下	—	(12.9)	極めて 良好	密 1mm以下の白色微粒多く含む	施釉部分：5Y8/2 灰 白 露胎部分：5Y6/1 灰	輪積み成形後板状工具に よるヨコナデ・輪積み直 りを消すように押印帯あ り・口縁部から体部にか けてハケ塗りによる灰釉 施釉	12世紀 常滑3型式に伴行か 注記セ581 005 1は 接合しないが同一個体		
17	7	6	SE004	セ581 005号 3	瀬美	甕	胴部	小片	—	(6.0)	極めて 良好	密 1mm以下の白色微粒極めて多く含む	施釉部分：2.5Y8/2 灰 白	輪積み成形後板状工具に よるヨコナデ・輪積み直 りを消すように押印帯あ り・灰釉付着	工具によるヨコナデ別 く、輪積み痕大きく残る	12世紀	
17	7	7	SE004	セ581 5トレ 005号一拵	瀬美	甕	胴部	小片	—	(5.3)	極めて 良好	密 1mm以下の黒色微粒多く含む	7.5YR4/1 褐灰	輪積み成形・灰釉付着・ 漆による補修痕あり	ヨコナデ別く、輪積み痕 が残る	12世紀	
17	7	8	SE004	セ581 上 層(005) 一拵	常滑	片口鉢I類	底部	小片	—	(2.9)	極めて 良好	密 1～2mmの黒色微粒多く含む、 1mm以下の白色微粒多く含む	2.5Y7/2 灰黄	重ね焼きの際に自然釉が 付着し、上に重ねられた 片口鉢の三角高台が癒着 し、一部分が欠失として見 込に残る		4～5 型式	
17	7	9	SE004	セ581 5トレ 005号一拵	常滑	片口鉢I類	底部	小片	—	(4.4)	良好	やや粗い、3mm前後の小礫含む、 1mm以下の白色微粒含む	10YR7/1 灰白	ヨコナデ・底石として2 次利用され高台の置付 け部分摩耗する	ヨコナデ・内面使い込み 滑らかなる	反転還元 4～5 型式	
17	7	10	SE004	セ581 005号 4	美濃	指鉢型 小鉢	口縁部	小片	18.0?	(4.2)	極めて 良好	密 1mm以下の黒色微粒少量含む	施釉部分：5YR5/3 にふい赤褐 露胎部分：10YR8/4 浅黄褐色	ロクロナデ・口縁部、ど ぶ漬けによる鉄釉施釉・ 外面に比べて剥離激し い・口縁部に粥状の突起 めぐるが欠部分が欠失す る			
17	7	11	SE004	セ581 5トレ 005号一拵	瀬戸・美濃	平碗	底部	小片	—	(3.1)	極めて 良好	密 1～2mmの黒色微粒含む、高台に 小礫混じる	施釉部分：5Y6/2 灰 白 露胎部分：2.5Y6/2 灰黄	ロクロナデ・どぶ漬けに よる鉄釉施釉により体部 下半が露胎する・側りだ し高台・置付に右回転糸 切痕残る・高台内側は浅 い	反転還元 後Ⅱ期		
17	7	12	SE005	セ581 2トレ 004 1	瀬戸・美濃	平碗	口縁～ 体部	1/4以下	18.0?	(5.4)	良好	密 1mm以下の黒粒ごく微量含む 浸水による変色あり	2.5Y8/2 灰白	ロクロナデ・どぶ漬けに よる鉄釉施釉により体部 下半が露胎する・釉の発 色の不良	反転還元 後Ⅱ～Ⅲ期		
17	7	13	—	セ581 ハイド一拵	瀬戸・美濃	筒形容器	口縁～ 胴部	小片	16.2?	(3.6)	良好	密 褐色微粒ごく僅かに含む	7.5YR6/1 褐灰	ロクロナデ・鉄釉施釉・ 口縁部などの釉薬一部剥 ける	反転還元 大窯		





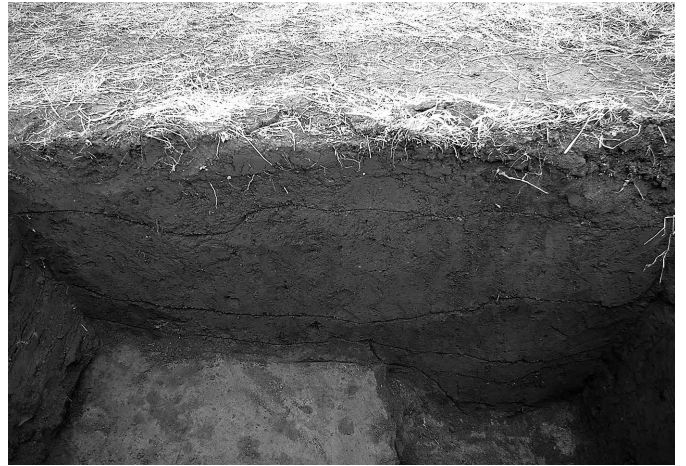
郡本遺跡群 調査前風景 (北東から)



郡本遺跡群 1号遺構 (東から)



郡本遺跡群 1号遺構 (西から)



郡本遺跡群 1号遺構断面 (北から)



稲荷台遺跡 (P 地点) 調査区全体 (南東から)



稲荷台遺跡 (P 地点) 1トレンチ (南から)



稲荷台遺跡 (P 地点) 2トレンチ (南から)



稲荷台遺跡 (P 地点) 7トレンチ (北から)



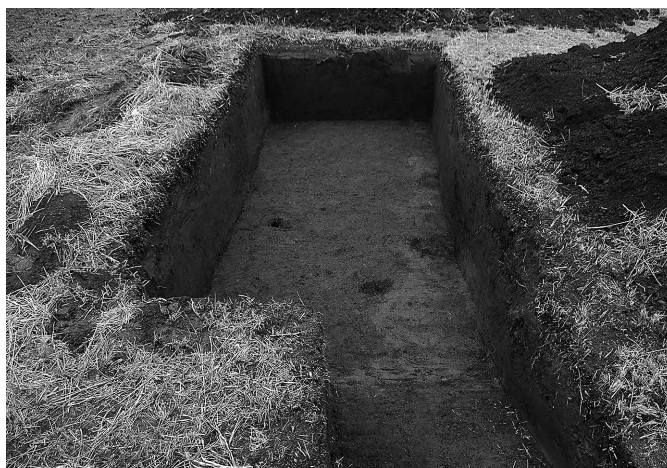
稲荷台遺跡 (P 地点) 9 トレンチ (南から)



稲荷台遺跡 (P 地点) 11 トレンチ (東から)



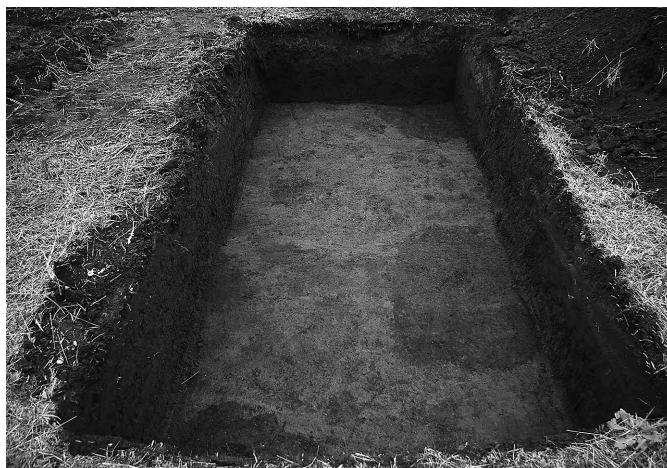
稲荷台遺跡 (P 地点) 11 トレンチ SI001A カマド (東から)



稲荷台遺跡 (P 地点) 12 トレンチ (北から)



稲荷台遺跡 (P 地点) 18 トレンチ (東から)



稲荷台遺跡 (P 地点) 19 トレンチ (南から)



稲荷台遺跡 (P 地点) 20 トレンチ (南から)



稲荷台遺跡 (P 地点) 調査風景 (西から)



稲荷台遺跡 (Q 地点) 調査前状況 (南東から)



稲荷台遺跡 (Q 地点) 1トレンチ (東から)



稲荷台遺跡 (Q 地点) 2トレンチ (東から)



稲荷台遺跡 (Q 地点) 6トレンチ (西から)



稲荷台遺跡 (Q 地点) 6トレンチセクション (北から)



稲荷台遺跡 (Q 地点) 4トレンチ (西から)



稲荷台遺跡 (Q 地点) 作業状況 (北西から)



稲荷台遺跡 (Q 地点) 7トレンチ (西から)



西野遺跡群 調査前 (北西から)



西野遺跡群 1トレンチ (南西から)



西野遺跡群 2トレンチ (東から)



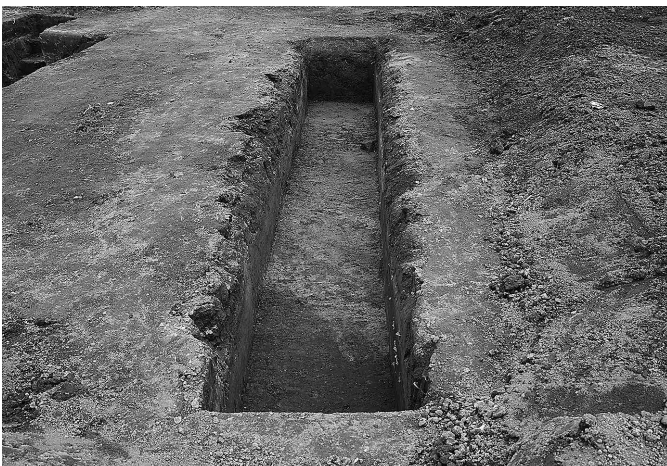
西野遺跡群 3トレンチ (西から)



西野遺跡群 4トレンチ (南から)



西野遺跡群 5トレンチ (北東から)



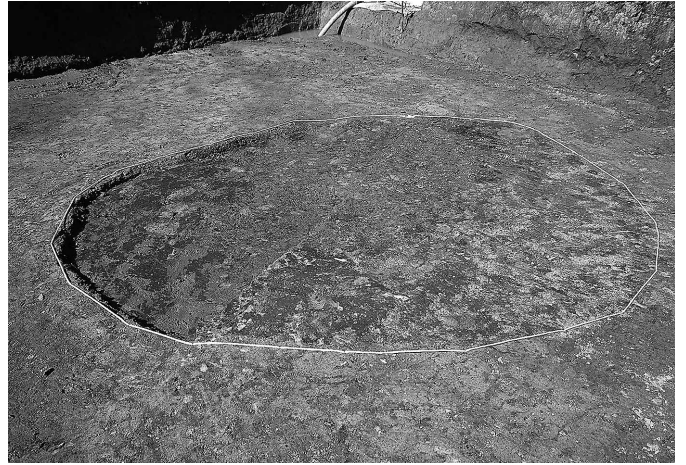
西野遺跡群 8トレンチ (西から)



西野遺跡群 本調査範囲掘削・排水作業 (西から)



西野遺跡群 本調査作業風景 (SE005 西から)



西野遺跡群 SE003 精査 (西から)



西野遺跡群 SE003 半截 (北西から)



西野遺跡群 SE003 完掘 (北から)



西野遺跡群 SE004 (北西から)



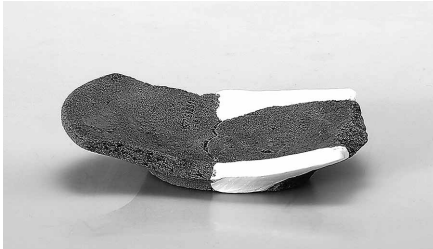
西野遺跡群 SE005 (西から)



西野遺跡群 SE006 (北西から)



西野遺跡群 調査区全体 (北から)



郡本遺跡群 (第 25 次) 1号遺構-3



稲荷台遺跡 (P 地点) 確 SD001-4



稲荷台遺跡 (Q 地点) 1トレンチ-1



稲荷台遺跡 (Q 地点) 4トレンチ-8



稲荷台遺跡 (Q 地点) 遺構外-13



西野遺跡群 (権現堂地区) SE001-1

郡本遺跡群 (第 25 次)

1号遺構



1



2



4

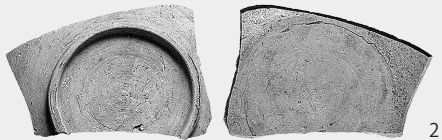
稲荷台遺跡 (P 地点)

19トレンチ



1

確 SD001



2



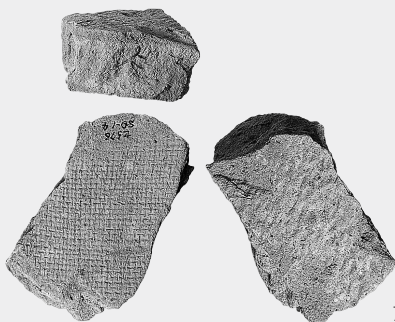
3



5

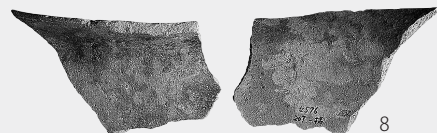


6



7

20トレンチ



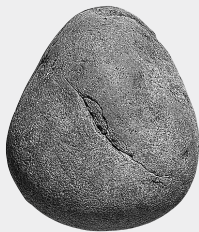
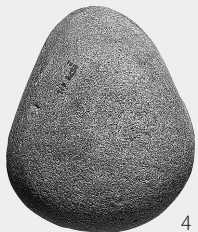
8

稲荷台遺跡 (Q 地点)

3トレンチ



4



2トレンチ



2

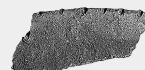


3

4トレンチ



5



6



7



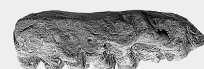
9



10



16



17

6トレンチ



11

8トレンチ



12

遺構外



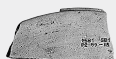
14



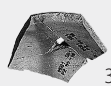
15

西野遺跡群 (権現堂地区)

SE002



2



3

SE003



4

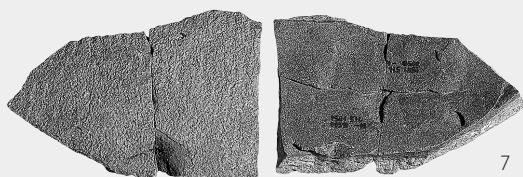
SE004



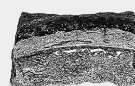
5



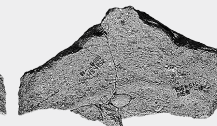
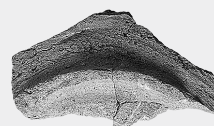
6



7

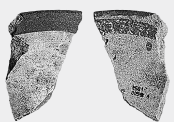


8

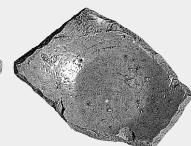


9

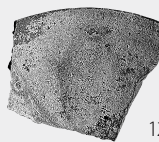
SE005



10



11



12

遺構外



13

報告書抄録

ふりがな	れいわ2ねんどいちほらしないいせきはくつちょうさほうこく
書名	令和2年度市原市内遺跡発掘調査報告
副書名	郡本遺跡群(第25次)、稲荷台遺跡(P地点)、稲荷台遺跡(Q地点)、西野遺跡群(権現堂地区)
巻次	
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第54集
編著者名	小川浩一・中野喬介
編集機関	市原市教育委員会(市原市埋蔵文化財調査センター)
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL 0436(41)9000
発行年月日	2021年(令和3年)3月17日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
こおりもといせきぐん(だい25じ) 郡本遺跡群(第25次)	ちばけんいちほらしふじい 千葉県市原市藤井一丁目70番地2	12219	793	35° 30′ 30″	140° 07′ 20″	20200117 ～ 20200117	3.89 m <sup>2</sup> (本調査)	個人住宅建設
いなりだいいせき(びーちてん) 稲荷台遺跡(P地点)	ちばけんいちほらしやまだぼし 千葉県市原市山田橋二丁目4番地5他 11筆	12219	792	35° 30′ 12″	140° 07′ 21″	20191118 ～ 20191219	160 m <sup>2</sup> /1,592.9 m <sup>2</sup> (確認調査)	保育所建設
いなりだいいせき(きゅーちてん) 稲荷台遺跡(Q地点)	ちばけんいちほらしやまだぼし 千葉県市原市山田橋三丁目8番地1、41	12219	792	35° 30′ 18″	140° 07′ 21″	20200228 ～ 20200312	61.9 m <sup>2</sup> /619.34 m <sup>2</sup> (確認調査)	宅地造成
にしのいせきぐん(ごんげんどうちく) 西野遺跡群(権現堂地区)	ちばけんいちほらしごんげんどうあざかみなかむら 千葉県市原市権現堂字上中村29番地3	12219	566	35° 28′ 46″	140° 06′ 29″	20200608 ～ 20200721	38.9 m <sup>2</sup> /389.52 m <sup>2</sup> (確認調査) 106 m <sup>2</sup> (本調査)	個人住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
郡本遺跡群(第25次)	集落	平安時代	平安時代竪穴建物跡1棟	平安時代土師器・緑釉陶器	平安時代の竪穴建物跡が検出された。
稲荷台遺跡(P地点)	集落、古墳	古墳時代、 奈良・平安時代、 中世、 近世	古墳時代終末期～奈良時代有天井土坑1基・地下式坑2基、奈良時代竪穴建物跡2棟、奈良・平安時代竪穴建物跡1棟・土坑5基・地下式坑1基、平安時代竪穴建物跡5棟・掘立柱建物跡2棟・土坑墓1基、奈良・平安時代～中世土坑2基、平安時代～中世溝状遺構1条、中世～近世土坑1基、近世土坑1基、中近世以降溝状遺構2条、近世以降道路状遺構1条	縄文土器、奈良・平安時代土師器・須恵器・鉄製品、瓦、平安時代灰釉陶器	奈良から平安時代にかけての竪穴建物跡が多数検出された。竪穴建物跡の多くはカマドを有し、一部から手斧などの鉄製品が出土した。稲荷台遺跡B地区に隣接する。
稲荷台遺跡(Q地点)	集落	縄文時代、弥生時代、 古墳時代、 奈良・平安時代、 中世	縄文時代陥し穴1基、弥生時代後期竪穴建物跡1棟、古墳時代前期竪穴建物跡3棟	縄文土器、弥生土器、古墳時代土師器、奈良・平安時代須恵器・瓦・瓦塔、中世磁器、石製品	弥生時代後期や、古墳時代前期の竪穴建物跡などが確認された。
西野遺跡群(権現堂地区)	集落	奈良・平安時代、 中世、近世	奈良・平安時代～中世井戸状遺構3基、中世土坑3基・井戸状遺構3基・溝状遺構3条、近世溝状遺構3条	奈良・平安時代土師器・須恵器、中世陶器、近世陶器	奈良・平安時代から中世にかけての井戸状遺構3基、中世の井戸状遺構3基を検出した。井戸状遺構覆土からは多数の中世陶器が見つかっている。

要約

今回は、前年度に発掘調査した3遺跡を含めて、市内に所在する4遺跡について整理報告を行った。遺跡の所在地は、いずれも北部となっている。郡本遺跡群(第25次)は、官衙関連遺構の存在を予想させる神主院跡が付近にあり、調査の結果、平安時代の竪穴建物跡が検出された。稲荷台遺跡(P・Q地点)は、東京湾を西に望む標高26～27m程度の台地上に位置し、P地点は、奈良・平安時代の竪穴建物跡や土坑が確認された。また、Q地点は、縄文時代の陥し穴や、弥生時代後期及び古墳時代前期の竪穴建物跡が確認された。西野遺跡群(権現堂地区)は、養老川中下流部左岸を望む微高地上に位置し、付近に烏帽子と考えられる布状漆製品が出土した鎌倉期の溝状遺構が存在する。調査の結果、当調査区においても、古代から中世にかけての井戸状遺構を検出し、一帯における中世遺構の広がりが想定された。

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第54集

令和2年度市原市内遺跡発掘調査報告

令和3年3月17日 発行

編集発行

市原市教育委員会  
市原市埋蔵文化財調査センター  
千葉県市原市能満1489  
TEL 0436(41)9000

印刷

株式会社 弘文社  
千葉県市川市市川南2-7-2  
TEL 047(324)5977





